

和歌山県立近代美術館

年 報

昭 和 56 年 度

昭和56年度

# 和歌山県立近代美術館年報

## 目次

1. 主要行事	2
2. 主催展覧会	3
企画展「洋画の世界—滞欧・滞米作品を中心として—」	3
〃 「版画の世界—新収蔵作品を中心として—」	4
第8回移動美術館「移動美術館'81 御坊展」	6
企画展「洋画の世界—人物画を中心として—」	7
特別展「下村観山展」	8
企画展「洋画の世界—戦前の作品より—」	10
企画展「館蔵作品展—新収蔵作品を中心として—」	11
特別展「建島覚造展」	13
3. 共催展覧会	17
4. 貸館展覧会	18
5. 普及活動	20
6. 昭和56年度所蔵作品	23
7. 所蔵品貸出状況	27
8. 県立近代美術館協議会委員	27
9. 県立近代美術館職員構成	28
〈資料紹介〉「日高昌克 日記(II)」	29

# 1. 主要行事

昭和56年度	
4月2日～5月4日	企画展「洋画の世界——滞欧・滞米作品を中心として——」
5月14日～6月7日	企画展「版画・彫刻の世界——新収蔵作品を中心として——」
6月18日～6月21日	移動美術館'81「御坊展」
7月16日～8月3日	第19回和歌山県美術家協会展 第1期 7月16日～7月20日 <日本画・書・工芸・生花> 第2期 7月23日～7月27日 <洋画・彫塑・写真・現代造形> 串本展 7月31日～8月3日 <各部門選抜>
8月1日～8月30日	企画展「洋画の世界——人物画を中心として——」
10月3日～10月26日	特別展「下村観山展」
10月3日～10月26日	企画展「洋画の世界——戦前の作品より」
11月12日～12月13日	第35回和歌山県美術展覧会 第I期 11月12日～11月16日 <生花・書・彫塑> 第II期 11月19日～11月23日 <日本画・工芸・写真> 第III期 11月26日～11月30日 <洋画> 新宮展 12月11日～12月13日 <生花を除く各部門選抜>
1月7日～2月14日	企画展「館蔵作品展——新収蔵作品を中心として——」
2月18日～2月22日	第16回県立近代美術館友の会展
2月27日～3月21日	特別展「建畠寛造展」

# 2. 主催展覧会

## ○ 企画展「洋画の世界——滞欧・滞米作品を中心として——」

会期 4月2日～5月4日（毎週火曜日休館）

当館所蔵作品のうちから石垣栄太郎、川口軌外、木下孝則など11作家の滞欧、滞米作品を選んで広く一般に展覧した。（入場者 2,062人）

### 出品目録

No.	作者	作品名	材質・形状	寸法	制作年
1	青山 義雄	K夫人肖像	油彩・キャンバス	80.0×65.0	1930
2	石垣栄太郎	女の顔	〃	26.3×20.7	1916
3	〃	自画像	〃	41.3×32.3	1917
4	〃	ポーナスマーチ	〃	144.5×106.0	1932
5	〃	キューバ島の反乱	〃	181.0×140.0	1933
6	〃	女の肖像	〃	35.2×28.1	1936
7	川口 軌外	婦人像	〃	59.5×49.5	1920～23頃
8	〃	水差しのある静物	〃	80.0×65.5	1925
9	〃	裸婦群像	〃	87.8×95.0	1925頃
10	〃	バナナのある静物	〃	90.6×72.5	1928
11	〃	半身	〃	91.5×73.0	1927～29頃
12	〃	ボヘミアン	〃	116.5×80.3	1928
13	木下 雅子	肘をつく女	〃	72.5×60.6	1929
14	〃	玉葱の静物	〃	60.6×72.7	1930
15	〃	自画像	油彩・板	33.0×24.0	〃
16	木下 義謙	肖像	油彩・キャンバス	116.7×74.0	1928
17	〃	カーニュ風景	〃	60.5×72.5	1929
18	〃	アカデミー（男）	〃	45.5×38.0	1930
19	〃	日曜日の公園	〃	112.0×162.0	1931
20	〃	静物	〃	73.0×91.0	〃
21	〃	赤衣半身像	〃	91.0×73.0	〃
22	〃	婦人半身像	水彩・紙	36.5×27.0	1928
23	木下 孝則	マダム・オコノエ	油彩・キャンバス	40.9×31.8	1921～23頃
24	〃	赤衣の女	〃	71.5×51.0	1934
25	高井 貞二	影	〃	114.3×127.2	1958
26	〃	生きる	〃	127.0×127.0	1959
27	〃	ブルー	〃	132.0×174.0	1960
28	〃	MURASAKI	〃	136.9×132.1	1962
29	〃	青い色	〃	127.3×127.0	1965
30	〃	野の憩い	〃	144.0×170.0	1968
31	裕 伊之介	ブザンソン風景	〃	50.1×60.8	1924
32	〃	遠眼鏡	〃	40.8×33.0	1934
33	〃	コルシカ島にて	水彩・紙	33.5×41.0	1921
34	〃	ヴァンサンヌ公園	木版・紙	23.5×29.5	1928頃
35	〃	南仏の田舎娘	〃	39.0×29.5	〃

36	裕 伊之介	朝 顔	石版・紙	74.2× 53.5	1934頃
37	〃	大きなパルミエ	〃	52.0× 69.0	〃
38	〃	鐘 楼	〃	50.0× 65.6	〃
39	ヘンリー杉本	カーメルハイランド海辺	油彩・キャンバス	80.5×100.0	1937
40	〃	セーヌ河畔	〃	91.5× 73.0	1963
41	〃	テナメント・ニューヨーク	〃	162.0×130.0	1965
42	村井 正誠	パンチュール No.2	〃	100.0× 80.3	1929
43	〃	アラブの窓	〃	80.0×196.3	〃
44	〃	水 浴	〃	100.0× 81.2	1930
45	〃	ポウトレ・アラブ	〃	73.0× 61.0	〃
46	〃	パンチュール (赤い帽子)	〃	72.7× 90.8	〃
47	〃	姉 妹	〃	100.2× 80.3	〃
48	保田 龍門	読 書	〃	65.0× 53.0	1921
49	〃	裸婦立像	〃	80.5× 45.0	1921~23頃
50	〃	老婦人像	〃	60.5× 44.5	〃
51	〃	パリ風景	〃	46.0× 53.8	1922

○ 企画展「版画の世界——新収蔵作品を中心として——」

会 期 5月14日～6月7日 (毎週火曜日休館)

当館の所蔵作品のうちから昭和55年度新たに収蔵した作品の紹介を兼ね、我が国戦後の版画史の上で大きな転換期となった1955年(昭和30年)以降の版画作品と、我が国の現代彫刻を代表し、本県ともゆかりの深い建島覚造、保田春彦の彫刻作品を展示した。(入場者 1,935人)

出品目録

〔版 画〕

No.	作 者	作 品 名	材 質・形 状	寸 法	制作年
1	小野木 学	風景(脈) E	紙・シルクスクリーン	57.0× 57.5	1968
2	〃	風景(光源) A	〃	57.0× 57.0	〃
3	〃	風景 H.A	〃	70.5× 57.5	1969
4	〃	風景 706	〃	57.0× 57.0	1970
5	〃	風景 N.E.P	〃	49.0× 36.0	1972
6	〃	風景 L.U.D	〃	57.5× 57.5	1975
7	吉原 英雄	彼女は空へ	紙・リトグラフ、エッチング、アクアチント併用	72.0×104.0	1968
8	木村 光佑	OUT OF TIME-24	紙・アクリル・リトグラフ、シルクスクリーン併用	76.5× 54.5	1970
9	〃	OUT OF TIME-25	〃	76.5× 54.5	〃
10	〃	OUT OF TIME-26	〃	75.0× 54.0	〃
11	〃	現在位置-存在(A)	紙・リトグラフ、シルクスクリーン併用	73.5×103.0	1971
12	〃	現在位置-存在(C)	〃	73.5×103.0	〃
13	李 禹煥	関係項-A	紙・木版	73.0×106.0	1979
14	〃	関係項-B	紙・木版	73.0×106.0	〃
15	斎藤 智	Untitled C	紙・シルクスクリーン	56.5× 70.0	1976
16	〃	Untitled A	〃	74.0× 71.0	1979

17	野田 哲也	日記1971年7月5日	紙・木版、シルクスクリーン併用	45.0× 45.0	1971
18	中林 忠良	Transposition-転位III	紙・エッチング、アクアチント併用	57.0× 45.2	1979
19	〃	Transposition-転位 I	〃	50.0× 50.0	1980
20	黒崎 彰	浄夜W-66	紙・木版	50.0× 70.0	1968
21	〃	寓 話	〃	50.0× 70.0	1969
22	〃	闇のコンポジションC	〃	80.0× 55.0	1970
23	〃	終りの部屋 4	〃	55.0× 55.0	1971
24	〃	暗号の森 2	〃	55.0× 80.0	1973
25	村井 正誠	三本の木	紙・リトグラフ	69.0× 48.5	1962
26	〃	天 使	紙・木版	63.0× 46.0	1963
27	〃	夜の人	〃	62.0× 48.0	1964
28	〃	泉	紙・リトグラフ	63.0× 52.0	1965
29	〃	青い人	紙・木版	62.0× 45.0	1972
30	〃	人	紙・シルクスクリーン	62.0× 44.0	1974
31	〃	丸い顔	〃	61.0× 51.0	1977
32	浜口 陽三	スペイン風油入れ	紙・メゾチント	28.5× 28.5	1954
33	〃	ジプシー	〃	29.0× 29.0	〃
34	〃	魚とさくらんぼ	紙・カラーメゾチント	14.3× 19.2	1956
35	〃	雲	紙・メゾチント	26.0× 49.0	1958
36	〃	ういきょう	〃	29.0× 44.0	〃
37	〃	黒いさくらんぼ	紙・カラーメゾチント	19.3× 26.5	1961
38	〃	糸と編棒	紙・メゾチント	23.8× 53.8	1962
39	〃	19のさくらんぼと1つのさくらんぼ	紙・カラーメゾチント	23.5× 53.5	1965
40	〃	¼のレモン	〃	16.0× 16.0	1976
41	〃	さくらんぼと青い鉢	〃	29.0× 33.0	〃
42	〃	蝶	〃	16.0× 16.0	1977
43	吉田 政次	地の泉 No.1	紙・木版	56.0× 82.5	1956
44	〃	憂愁の空 No.2	〃	43.5× 72.0	1957
45	〃	相対性絵画 No.5	〃	157.0×157.0	1959
46	〃	空 間 No.17	〃	57.0× 57.0	1962
47	〃	空 間 No.44	〃	57.0× 57.0	1965
48	〃	躍動する心 No.1	〃	79.0× 70.0	1968
49	〃	青春の輝き No.2	〃	87.0× 72.0	1969

〔彫 刻〕

50	建島 覚造	壁 体	ホワイトブロンズ	H53.0	1966
51	〃	CHIMNEY BOTTLES	アルミニウム、ステンレス	H63.0	1970
52	〃	瑞 徴	ステンレス	H39.0	1979
53	保田 春彦	階段のある広場・SIRACUSA	〃	H 9.0	1973
54	〃	階段のある広場・TAORMINA	〃	H11.0	1973
55	〃	斜面のある風景	真鍮にニッケルメッキ	H50.0	1973

○ 第8回移動美術館「移動美術館'81 御坊展」

本館の所蔵作品を広く一般の展覧に供するため、本県の地理的状况から移動美術館を開設し美術館活動の普及を図ることにより、美術に対する関心を高め、美術振興の一助にしようとするもので、本年度は御坊市において開催した。(入場者 1,326人)

会 期 6月18日～6月21日 / 会 場 紀州信用金庫4階大会議室

主 催 和歌山県立近代美術館 御坊市教育委員会

後 援 御坊市 和歌山県美術家協会 和歌山県立近代美術館友の会

出品目録

〔洋画〕

No.	作者	作品名	材質・形状	寸法	制作年
1	青山 義雄	K夫人肖像	油彩・キャンバス	80.0×65.0	1930
2	石垣栄太郎	拳闘	〃	75.2×91.3	1925
3	〃	ボーマス・マーチ	〃	144.5×106.0	1932
4	川口 軌外	ボヘミアン	〃	116.5×80.3	1928
5	〃	窓辺の静物	〃	80.0×65.0	1924～26
6	〃	写像	〃	116.5×90.5	1927
7	〃	貝殻	〃	80.3×115.5	1936
8	木下 孝則	女優の像	〃	91.0×73.0	1926
9	〃	K男爵夫人像	〃	91.3×72.8	〃
10	〃	赤衣の女	〃	71.5×51.0	1934
11	木下 雅子	肘をつく女	〃	72.7×60.6	1929
12	〃	玉葱の静物	〃	60.6×72.7	1930
13	〃	A嬢の肖像	〃	45.5×38.2	1933
14	木下 義謙	カーニュ風景	〃	60.5×72.5	1929
15	〃	赤衣半身像	〃	91.0×73.0	1931
16	〃	横光線の肖像	〃	91.0×73.0	1935
17	〃	ふじざくらの下にて	〃	112.0×145.5	1938
18	高井 貞二	感情の遊離	〃	149.5×89.5	1932
19	〃	輪廻	〃	108.7×144.5	〃
20	〃	踊り子	〃	104.7×121.2	1948
21	裕 伊之助	ブザンソン風景	〃	50.1×60.8	1924
22	〃	遠眼鏡	〃	40.8×33.0	1934
23	原 勝四郎	小 湾	油彩・カルトン	58.3×70.5	1940
24	〃	婦人像	〃	73.0×60.0	1953
25	ヘンリー杉本	寺院のみえるビーエー村	油彩・キャンバス	79.0×99.0	1940
26	〃	セーヌ河畔	〃	88.0×70.0	1963
27	〃	モレー洗濯場	〃	90.0×70.0	1964
28	村井 正誠	パンチュール(赤い帽子)	〃	72.7×90.8	1930
29	保田 龍門	村の娘	〃	82.5×67.0	1916
30	〃	老婦人像	〃	60.5×44.5	1921～23
〔日本画〕					
31	小野 竹喬	春 芽	紙本・着色	37.9×45.0	1972
32	川端 龍子	白浜・円月島	紙本・淡彩	47.0×69.0	1958
33	野長瀬晩花	女 優	紙本・着色	36.5×48.0	1947
34	〃	夢ばかりみている男	〃	48.0×36.5	1950

35	秦 テルヲ	吉原の女	寒冷紗・着色	134.5×44.5	1920
36	日高 昌克	初夏峰巒図	紙本・着色	51.6×31.1	1953
37	〃	林塘早春図	〃	43.6×50.0	1957
38	山口八九子	風 景	絹本・着色	130.0×42.0	1917

〔版画〕

39	小野 忠重	レニングラード早春	木版・紙	30.5×44.5	1961
40	〃	パリの屋根	〃	25.0×45.0	1964
41	田中 恭吉	あおぞら	〃	16.5×12.0	1914
42	〃	風 景	〃	11.0×16.0	〃
43	裕 伊之助	ヴァンサンヌ公園	〃	23.5×29.5	1928頃
44	浜口 陽三	スペイン風油入れ	メゾチント・紙	28.5×28.5	1954
45	〃	クローバーの実	〃	29.5×29.0	1957
46	〃	水差しとぶどうとレモン	〃	29.5×34.5	〃
47	〃	緑のぶどう	カラーメゾチント・紙	24.5×19.5	1958
48	〃	黒いさくらんぼ	〃	19.5×24.3	1964
49	〃	さくらんぼと青い鉢	〃	29.0×33.0	1976
50	村井 正誠	母と子	石版・紙	56.0×39.5	1956
51	〃	泉	〃	63.0×52.0	1965
52	吉田 政次	哀愁の日	木版・紙	59.0×43.5	1956
53	〃	空 間 No.48	〃	57.0×57.0	1965
54	〃	躍動する心 No.1	〃	79.0×70.0	1968
55	〃	青春の輝き No.2	〃	87.0×72.0	1969
56	黒崎 彰	赤い闇 2	〃	80.0×55.0	1970
57	〃	失なわれた楽園 5	〃	80.0×55.0	1972

〔彫刻〕

58	建畠 大夢	恩師の顔	ブロンズ	H35.0	1939
59	建畠 覚造	CHIMNEY BOTTLES	アルミニウム、ステン レススチール	H63.0	1970
60	保田 龍門	うづくまる女	ブロンズ	H35.0	1947
61	保田 春彦	ソフィット B	〃	H31.5	1977

○ 企画展「洋画の世界——人物画を中心として——」

会 期 8月1日～8月30日(毎週火曜日休館)

当館の所蔵作品及び寄託作品のうちから石垣栄太郎、川口軌外、木下孝則など12作家の人物画を選んで、一般の展覧に供した。(入場者 1,990人)

出品目録

No.	作者	作品名	材質・形状	寸法	制作年
1	石垣栄太郎	女の肖像	油彩・キャンバス	35.2×28.1	1936
2	〃	街	〃	123.2×87.5	1925
3	〃	拳闘	〃	75.2×91.3	〃
4	鹿子木孟郎	パイプを持つ男	〃	79.5×64.0	1906
5	川口 軌外	婦人像	〃	59.5×49.5	1920～23
6	〃	仰臥裸婦	〃	60.5×80.5	1926頃
7	〃	老 人	〃	115.0×72.9	1927～29
8	〃	地 維	〃	154.6×193.1	1932

9	川口 軌外	無 題	油彩・キャンバス	162.0×112.5	1935
10	〃	少女と子供	〃	116.5× 91.0	1937
11	〃	二 婦	〃	162.0×130.5	1939
12	〃	日傘と人	〃	116.3× 90.3	1953
13	〃	夏の浜にて	〃	116.5× 91.0	1955
14	〃	構 図	〃	117.0× 80.5	1956
15	〃	集 団	〃	160.5×112.8	〃
16	〃	人 体	〃	130.5× 89.4	1957
17	木下 孝則	マダム・オコノエ	〃	40.9× 31.8	1921~23
18	〃	女優の像	〃	91.0× 73.0	1926
19	〃	赤衣の女	〃	71.5× 51.0	1934
20	〃	A氏像	〃	52.7× 45.6	1949
21	木下 雅子	A嬢の肖像	〃	45.5× 38.2	1933
22	〃	裸女と黄衣	〃	145.5×112.0	1934
23	〃	坐せる裸女	〃	72.7× 60.6	〃
24	木下 義謙	読書の母	〃	40.9× 31.8	1922
25	〃	同 窓	〃	73.0× 60.5	1924
26	〃	横向きの婦人像	〃	73.0× 60.5	1925
27	〃	父の肖像	〃	65.0× 50.0	1926
28	〃	車内のロシア軍人	〃	41.0× 31.5	1928
29	〃	アカデミー (男)	〃	45.5× 38.0	1930
30	〃	横光線の肖像	〃	91.0× 73.0	1935
31	〃	ふじぎくらの下にて	〃	112.0×145.5	1938
32	高井 貞二	感情の遊離	〃	149.5× 89.5	1932
33	〃	踊り子	〃	104.7×121.2	1948
34	〃	スリーサークル	〃	132.8×177.8	1968
35	裕 伊之助	遠眼鏡	〃	40.8× 33.0	1934
36	原 勝四郎	画工像	油彩・カルトン	64.8× 52.0	1932
37	〃	道 化	〃	89.9× 72.0	1941
38	〃	婦人像	〃	73.0× 60.0	1953
39	ヘンリー杉本	ヤング・アメリカンズ	油彩・キャンバス	162.0×130.0	1966
40	〃	ロンギング	〃	162.0×130.0	1968
41	村井 正誠	姉 妹	〃	100.2× 80.3	1930
42	保田 龍門	自画像	〃	45.5× 37.5	1915
43	〃	村の娘	〃	82.5× 67.0	1916
44	〃	読 書	〃	65.0× 53.0	1921

### ○ 特別展「下村観山展」

会 期 10月3日～10月26日 (毎週火曜日休館) (入場者 8,726人 / 有料 7,636人)

主 催 和歌山県立近代美術館

下村観山は、紀州徳川家に代々能役者をもって仕えた下村家の三男として、明治6年和歌山市に生まれ、明治22年東京美術学校に入学、卒業と同時に同校助教となり、同31年横山大観、菱田春草等と共に日本美術院設立に参画、その後東京美術学校教授、文展審査員などを務め、横山大観と日本美術院を再興し、大観と共に日本美術院の双壁と称せられ、我が国近代日本画史上に確固たる位置を占めている。

今回の展観は、本県初公開の重要文化財「弱法師」をはじめ下村観山の代表作を展示することにより、観山の芸術生涯を回顧すると共に、近代日本画史上に果たした役割りを紹介した。

### 出品目録

No.	作 品 名	材質・形状	寸 法	制作年	出品展覧会名・所蔵者
1	山水図	紙本水墨	13.3× 49.5	1884	
2	蘇頻陀尊者図	紙本着彩	91.8× 38.5	〃	
3	鷹 図	紙本水墨	66.0× 50.0	1886	永青文庫
4	箴 図	紙本着彩	95.7× 50.5	1889~93	
5	日蓮上人辻説法	絹本着彩	45.0× 75.0	1892	東京芸術大学芸術資料館
6	熊野観花	〃	61.3×119.7	1894	〃
7	元寇図	紙本着彩	159.0×233.5	1895	東京大学教養学部図書館
8	仏 誕	絹本着彩	204.0×144.0	1896	日本絵画協会第1回共進会展 東京芸術大学芸術資料館
9	嗣信最期	〃	228.7×356.0	1897	日本絵画協会第3回共進会展 東京芸術大学芸術資料館
10	修羅道絵巻	紙本着彩	45.0×970.0	1900	日本絵画協会第8回共進会展 東京国立博物館
11	狩素描	紙本水墨	13.0× 11.3	1903~5	神奈川県立近代美術館
12	模写「ナイト・エラント」	紙本着彩	101.0× 75.0	1904	
13	木の間の秋	〃	・二曲一双 各170.0×171.0	1907	第1回文展 東京国立近代美術館
14	不動明王	絹本着彩	48.6× 73.5	1907頃	山種美術館
15	信濃の山路下図	紙本淡彩	185.5× 90.0	〃	神奈川県立近代美術館
16	小倉山下図	紙本水墨・六曲一双	各157.1×325.6	1909	東京芸術大学芸術資料館
17	春 秋	絹本着彩・双幅	各126.7× 49.5	1909頃	
18	養老孝子	絹本着彩	123.7× 51.8	〃	
19	魔 障	紙本水墨	64.0×173.5	1910	第4回文展 東京国立博物館
20	魔障下図	〃	64.0×164.0	〃	
21	魔障画稿 (3点)	〃		1910頃	神奈川県立近代美術館
22	朝返り下図	紙本淡彩	79.2× 40.4	1911	
23	鶴	絹本着彩・六曲一双	各169.0×362.0	1912	春草追悼展 東京国立博物館
24	蝦蟇鉄拐図	〃	・双幅 各123.7× 42.3	1913頃	
25	白 狐	紙本着彩・二曲一双	各186.8×208.4	1914	第1回再興院展 東京国立博物館
26	商山四皓下図	紙本水墨	54.0× 78.0	1914頃	
27	弱法師 (重要文化財)	絹本着彩・六曲一双	各187.5×407.0	1915	第2回再興院展 東京国立博物館
28	弱法師下図	紙本水墨	187.5×203.0	〃	
29	女	絹本着彩	135.2× 50.5	〃	日本美術院第1回試作展 永青文庫
30	女下図	紙本水墨	135.0× 50.0	〃	永青文庫
31	春 雨	絹本着彩・六曲一双	各190.0×406.0	1916	第3回再興院展 東京国立博物館

32	豊太閤	絹本着彩	150.6×71.2	1918	第5回再興院展 東京国立博物館
33	寒山拾得図	〃	131.3×42.5	1919	
34	勇駒	〃	143.5×50.8	1920	
35	寿老	〃	151.0×69.0	〃	山種美術館
36	老松白藤	紙本着彩・六曲一双	各168.3×374.2	1921	〃
37	騎馬大将下図	紙本淡彩	51.7×38.0	1921頃	
38	西瓜図	板着彩	38.8×38.6	〃	
39	天心先生画稿	紙本淡彩	136.2×66.5	1922	東京芸術大学芸術資料館
40	後醍醐天皇下図	〃	52.3×45.0	1923	
41	晩鐘	絹本着彩	45.7×98.7	1924	
42	維摩黙然下図	紙本淡彩	153.5×86.8	〃	
43	魚籃観音	絹本着彩	左158.5×32.3 中158.5×56.0 右158.5×32.3	1928	第15回再興院展
44	魚籃観音下図	紙本淡彩	左156.6×31.5 中156.2×56.8 右	〃	
45	意馬心猿	絹本着彩	143.0×50.5	1930	
46	筍図(絶筆)	〃	52.4×80.6	〃	
47	権兵衛種蒔之図	紙本水墨	126.4×30.2		
48	五百羅漢下図(12点)	〃	各170.4×89.3		

〔資料〕

49	座右銘(岡倉天心筆)	紙本扇面	13.5×41.0	1893	
50	観山肖像(和田英作筆)	紙・油彩	33.0×23.0	1897	
51	デスマスク・天心先生書簡集・画稿貼入帳・写生図・筆・絵具・硯・渡航証明書・院葬之辞・印譜など				

※会期中下記のとおり展示替えをした。

10月3日～14日 作品No.5.6.8.27

10月15日～26日 作品No.9.13.25.39

○ 企画展「洋画の世界——戦前の作品より」

特別展「下村観山展」に併設して、当館の所蔵作品のうちから神中糸子、鹿子木孟郎、保田龍門など12作家の戦前の作品28点を選んで展示した。

出品目録

No.	作者	作品名	材質・形状	寸法	制作年
1	神中 糸子	海岸風景	油彩・キャンバス	38.0×80.4	1888～92
2	鹿子木孟郎	パイプを持つ男	〃	79.5×64.0	1906
3	保田 龍門	自画像	〃	45.5×37.5	1915
4	〃	村の娘	〃	82.5×67.0	1916
5	〃	老婦人像	〃	60.5×44.5	1921頃
6	石垣栄太郎	拳闘	〃	75.2×91.3	1925
7	〃	街	〃	123.2×87.5	〃
8	川口 軌外	地 維	〃	154.6×193.1	1932
9	〃	ボヘミアン	〃	116.5×80.3	1928
10	〃	無 題	〃	160.5×112.0	1935

11	〃	少女と子供	油彩・キャンバス	116.0×91.0	1937
12	木下 義謙	父の肖像	〃	65.0×50.0	1926
13	〃	肖像	〃	116.0×73.0	1928
14	〃	静物	〃	73.0×91.0	1931
15	木下 孝則	女優の像	〃	91.0×73.0	1926
16	〃	赤衣の女	〃	71.5×51.0	1934
17	裕 伊之助	ブザンソン風景	〃	50.1×60.8	1924
18	原 勝四郎	画工像	油彩・カルトン	64.8×52.4	1932
19	〃	小 湾	〃	58.3×70.5	1940
20	〃	道 化	〃	89.9×72.8	1941
21	〃	瀬戸風景	〃	65.0×53.0	1935
22	〃	裸 婦	〃	72.3×60.7	1930
23	ヘンリー杉本	寺院のみえるピーエー村	油彩・キャンバス	79.0×99.0	1940
24	村井 正誠	パンチュール(赤い帽子)	〃	72.7×90.8	1930頃
25	〃	URBAIN No.1	〃	111.8×193.7	1936
26	高井 貞二	感情の遊離	〃	149.5×89.5	1932
27	〃	想ひを	〃	112.2×145.5	1935
28	〃	建 設	〃	188.0×129.0	1938

○ 企画展「館蔵作品展——新収蔵作品を中心として——」

会 期 1月7日～2月14日(毎週火曜日休館)

当館の所蔵作品及び寄託作品のうちから、昭和56年度中に新たに収蔵した日本画、洋画、版画作品を中心として約70点を展示し、広く一般の展覧に供した。(入場者 2,492人)

出品目録

〔日本画〕

No.	作者	作品名	材質・形状	寸法	制作年
1	稗田 一穂	幻想那智	彩色・紙	227.3×181.8	1979
2	〃	夏去る	〃	193.5×172.5	1980
3	下村 観山	魔障図下図	水墨・絹	64.0×164.0	1910
4	〃	維摩黙然下図	淡彩・紙	153.5×86.5	1924
5	〃	夕月下図	水墨・紙	52.2×78.4	1925
6	野長瀬晩花	桜の頃	彩色・絹	114.0×32.0	大正初期
7	伊藤 草白	葡萄之図	〃	42.0×51.5	1925
8	土田 麦僊	梅ヶ畑村	〃	145.0×50.8	1915
9	吹田 草牧	夏国之初夏	〃	127.0×42.1	1919頃
10	山口八九子	観蓮図	彩色・紙	138.7×32.9	1925
11	〃	月ヶ瀬梅溪之図	彩色・絹	144.0×55.9	1921
12	〃	鶏舎午早之図	〃	138.2×33.9	1915

〔洋画〕

13	玉置 正敏	喪失する室内	油彩・キャンバス	97.0×130.0	1952
14	〃	三角くじを喰べる男達	〃	116.0×91.0	1953
15	〃	赤い時計のある室内	〃	130.5×161.5	1954
16	〃	ヘラクレスを喰べる大蛇	〃	162.0×130.0	1958
17	〃	洪水と男	〃	162.0×390.0	1968
18	〃	偉大なる朝食	〃	130.5×193.5	1973

19	玉置 正敏	CRYING	油彩・キャンバス	130.0×324.0	1976
20	〃	盲人になったユークリッド氏	〃	162.0×260.0	1978
21	〃	或る会議	〃	73.0×116.5	〃
〔版 画〕					
22	中林 忠良	夜の碑	紙・エッチング、アクアチント	45.5× 57.0	1974
23	〃	暗黒の譜	〃	45.5× 57.0	〃
24	〃	囚われる日々 VII	紙・エッチング、アクアチント、メゾチント	45.5× 57.0	〃
25	野田 哲也	日記1977年3月3日 (b)	紙・木版、シルクスクリーン	45.0× 64.5	1977
26	〃	日記1980年9月6日	〃	44.7× 64.3	1981
27	黒崎 彰	時の軌跡	紙・木版	80.0× 55.0	1981
28	〃	黒の軌跡	〃	80.0× 55.0	〃
29	小野木 学	風景 H.A	紙・シルクスクリーン	70.5× 57.5	1969
30	吉原 英雄	シーソー I	紙・リトグラフ、エッチング	100.0×100.0	1968
31	〃	プロポーズ	紙・リトグラフ	68.0× 52.0	1969
32	〃	ミラー・オブ・ザ・ミラーK	〃	70.0×100.0	1972
33	〃	五月の出来事	〃	53.5× 40.0	1966
34	浜口 陽三	ピーマンのある静物	紙・カラーメゾチント	44.0× 29.5	1960
35	〃	貝	紙・メゾチント	29.5× 44.0	〃
36	〃	アマンド	〃	29.3× 44.0	〃
37	〃	アスパラガス	〃	41.0× 29.5	1961
38	〃	ポプラ	紙・カラーメゾチント	19.3× 26.5	1962
39	〃	1つのさくらんぼ	〃	34.3× 29.4	〃
40	〃	黒いさくらんぼ	〃	34.3× 29.4	1963
41	〃	突 堤	〃	28.0× 28.0	1965
42	〃	14のさくらんぼ	〃	51.5× 24.5	1967
43	〃	17のさくらんぼ	〃	24.5× 51.5	1968
44	〃	ぶどうの房	〃	52.0× 24.2	1969
45	〃	赤い皿	〃	24.5× 51.5	〃
46	裕 伊之助	南仏の田舎娘	紙・木版	36.1× 27.5	1928頃
47	〃	ヴァンサンヌ公園	〃	23.5× 29.5	〃
48	逸見 享	森田氏の顔	〃	15.2× 10.6	1918
49	〃	幸福な海女の群	〃	19.5× 15.2	1919
50	〃	二 月	〃	13.4× 18.1	1922
51	〃	房州の女	〃	18.1× 24.9	〃
52	〃	雪	〃	15.1× 19.7	〃
53	〃	枯 木	〃	22.6× 16.5	1927
54	〃	風 景	〃	16.5× 22.5	1927頃
55	〃	上野公園 (夕)	〃	27.5× 36.7	1928
56	〃	夜汽車	〃	16.5× 13.5	〃
57	〃	食 卓	〃	13.5× 10.6	〃
58	〃	上海風景	〃	23.9× 30.8	〃
59	〃	静 物	〃	30.2× 37.8	〃
60	〃	海辺の朝	〃	21.2× 27.4	1929
61	〃	多摩川 (和泉)	〃	29.0× 37.8	1930

62	逸見 享	風 景	木版・紙	28.9×37.5	1930頃
63	〃	海村風景	〃	22.3×28.9	1931
64	〃	公 園 (公園小景)	〃	21.3×27.5	〃
65	〃	サボテンのある風景	〃	43.6×33.4	1932
66	〃	海岸工事	〃	33.5×27.5	〃
67	〃	サボテン	〃	44.0×30.9	1933
68	〃	茅ヶ崎風景	〃	31.8×40.7	1934
69	〃	薨	〃	24.1×30.3	1936
70	〃	風 景 (河畔への道)	〃	27.5×33.6	1930頃
71	〃	風 景	〃	21.0×14.7	1925頃

### ○ 特別展「建島覚造展」

会 期 2月27日～3月21日 (毎週火曜日休館) (入場者 1,050人/有料 745人)

主 催 和歌山県立近代美術館

建島覚造は、本県とゆかりの深い彫刻作家であり、わが国の現代彫刻、特に非具象分野を代表する作家として活躍しており、内外の国際的な彫刻展においても高い評価を得ている。この展覧会では、建島覚造の東京美術学校在学中の作品から最近作に至るまでの作品を一堂に展示し、建島芸術の全貌を紹介すると共に、わが国の戦後における彫刻界の最も先鋭的な動向を探ろうとした。

### 出品目録

No.	作 品 名	材質・形状	寸 法	制作年	所蔵者・出品展覧会名
1	少 年	ブロンズ	H 28.5	1938	
2	松室致博士像	〃	H 53.5	1942	法政大学蔵 連立春季彫塑展
3	梅謙次郎博士像	〃	H 55.5	1943	法政大学蔵
4	青 年	〃	H 22.0	〃	古賀政男記念博物館蔵 第3回直土会展
5	A夫人	石 膏	H 65.0	1946	第2回日本美術展
6	試作・母子像 (作品Aの1)	ブロンズ	H 20.0	1948	第2回農生彫塑展
7	午 前	〃	H 37.5	〃	第3回農生彫塑展
8	作品Aの3	セメント	H 60.0	1949	東京都美術館蔵 第3回農生彫塑展
9	作品Aの8	ポリエステル	H 27.5	1950	和歌山県立近代美術館蔵 第5回行動美術展
10	地 層 (作品Aの23)	〃	H 131.0	1951	和歌山県立近代美術館蔵 第6回行動美術展
11	星 座 (作品Aの24)	石 膏	66×55×10	〃	第6回行動美術展
12	顔	〃	H 65.0	1953	第8回行動美術展
13	か ほ	木	H 70.0	〃	第10回行動美術展
14	にはは (HANIWA)	〃	H 83.5	〃	サロン・ド・メ 今日の新人・1955年展
15	垂直の展開	〃	H 117.5	1954	サロン・ド・ラ・ジュヌスク ルチュール
16	展 開	〃	H 79.0	〃	「レアリテ・ヌーベル」展
17	テラコッタ (A)	テラコッタ	H 15.7	〃	第3回日本国際美術展 第10回行動美術春季展



18	テラコッタ (B)	テラコッタ	H 25.0	1954	第10回行動美術春季展
19	貌	セメント	H 139.0	1955	東京国立近代美術館蔵 第10回行動美術展
20	核	セメント、鉄	65×54×48	1956	第2回現代日本美術展
21	核 2	鉄、樹脂	83×75×35	1957	第12回行動美術春季展
22	有機体	セメント、脚・鉄	124×100×47	〃	第4回日本国際美術展
23	殻	セメント、土管	77×50×70	〃	第12回行動美術展
24	祖	木、セメント	H 123.0	1958	第3回現代日本美術展
25	有機体 3 (マケット)	ポリエステル	H 42.8	1959	和歌山県立近代美術館蔵
26	鳥	ポリエステル、脚・鉄	H 123.0	1960	第4回現代日本美術展
27	星の樹 (マケット)	ポリエステル	H 45.2	1961	和歌山県立近代美術館蔵
28	星の樹 2	ポリエステル、台・鉄	H 245.0	〃	第16回行動美術展
29	作品	ブロンズ	H 43.0	1962	第7回日本洋画壇1963年展
30	ORGAN	セメント、台・石	H 100.0	〃	第17回行動美術展
31	斜めの壁	鉄	105×124×18	〃	第3回集団現代彫刻展
32	ORGAN No.2 (マケット)	ポリエステル	36.7×53×10	1963	和歌山県立近代美術館蔵
33	ORGAN No.4 (マケット)	〃	33.7×10×10	1964	〃
34	門 '64 (マケット)	ホワイトブロンズ	34.5×21×7	〃	建島覚造自選展
35	ORGAN No.8 (マケット)	ポリエステル	22.4×34.9×11.5	1965	和歌山県立近代美術館蔵
36	ORGAN No.10	真鍮	31×27.7×11.8	1966	第3回国際現代彫刻展国内展
37	壁 体 (マケット)	ホワイトブロンズ	53.5×20.5×11.5	〃	示会 和歌山県立近代美術館蔵
38	ORGAN No.16	アルミニウム	42.5×46.5×18.5	1967	開設記念日本現代彫刻展
39	ORGAN-BOX (マケット)	ポリエステル	37×12.2×12.2	〃	開設記念日本現代彫刻展 和歌山県立近代美術館蔵
40	標 識 2	強化プラスチック (真空蒸着)	43.2×30.2×72	1969	第6回連翹会展 第24回行動美術展
41	CHIMNEY BOTTLES	アルミニウム ステンレス	63.0×66.3×22.2	1970	和歌山県立近代美術館蔵 第25回行動美術展
42	標 識	アクリル、強化プラ スチック(真空蒸着)	35×120×30	〃	建島覚造個展
43	波 (マケット)	強化プラスチック	70×42×42	1971	和歌山県立近代美術館蔵
44	GO GO	アルミニウム、 ステンレス	62×76.5×18	〃	第26回行動美術展
45	儀 式 (小)	アルミニウム、 ステンレス、皮	64×50.2×40.2	1972	建島覚造自選展
46	ALARM	ポリエステル、アクリル	211×81×124	〃	第27回行動美術展
47	さ傘(天の点滴を此の盃に)	アルミニウム、ス テンレス、真鍮・ク ロームメッキ	66×122×200	1973	東京都美術館蔵 第28回行動美術展
48	ひ と (大)	アルミニウム、 鉄、クロームメッキ	79×60×28	1974	御坊市蔵
49	NIGHT WATCH	アルミニウム、 ステンレス	63×137×60	〃	和歌山県立近代美術館蔵 第29回行動美術展

50	さ傘 2	アルミニウム	125×120×50	1974	第2回現代彫刻20展
51	ドレスナー銀行東京支店 レリーフ(マケット)	〃	20.5×54×1.5	〃	
52	ひ と (大)	ブロンズ	23.5×13×13	1975	行動美術小品展
53	二 人	ブロンズ、台・石	43×26×18	〃	第3回現代彫刻センター展
54	??	真鍮・クロームメッキ、 アルミニウム、鉄	57×38×30	1976	第4回現代彫刻センター展
55	傘	アルミニウム、ス テンレス、鉄、ナイ ロン布	240×240×85	〃	和歌山県立近代美術館蔵 第31回行動美術展
56	ECLIPSE(DISKI)	アルミニウム、 鉄、木、モーター	90×52×48	〃	第31回行動美術展
57	LANDSCAPE	真鍮、鉄・クローム メッキ	40×50×34	〃	建島覚造個展
58	傘	アルミニウム、鉄	96×80×34	1977	〃
59	DISK 2	アルミニウム、 鉄、木、モーター	90×52×48	〃	〃
60	DISK 3	〃	90×52×48	〃	〃
61	DISK 4	アルミニウム、真 鍮・クロームメッキ	54.5×155×100	〃	和歌山県立近代美術館蔵 建島覚造個展
62	DISK 5	アルミニウム、台・木	36.5×86×32.5	〃	建島覚造個展
63	????	ステンレス、アル ミニウム	60×60×3	〃	〃
64	動く傘	アルミニウム、 鉄、布、レール	210×130×175	1978	〃
65	DISK 8 (大)	アルミニウム、 ステンレス	69×70×109	〃	第33回行動美術展
66	DISK 9	〃	40×36×55	〃	七人の作家展
67	DISK 10	木	49×28×28	〃	彫刻家の手帖よりII 建島覚 造・土谷武・澄川喜一デッサ ンとマケット3人展
68	DISK 11	アルミニウム	45×28×28	〃	同上 かねこ・あーとギャラリー蔵
69	DISK 12 (大)	ステンレス	50×27×21	1979	第4回彫刻日動展
70	瑞 徴 (マケット)	〃	39.5×44.5×39.5	〃	和歌山県立近代美術館蔵 建島覚造木型展
71	LANDSCAPE 5	木	28×40×40	〃	東邦画廊蔵 建島覚造木型展
72	DISK 16	〃	33×33×11	〃	建島覚造木型展
74	室 内 1	木、鏡	45×45×7.5	〃	和歌山県立近代美術館蔵 建島覚造木型展
75	室 内 2	木	45×45×7.5	〃	〃
76	室 内 3	木、鉄	45×45×7.5	〃	〃
77	室 内 4	木	45×45×7.5	〃	〃
78	室 内 5	〃	45×45×7.5	〃	〃

79	UNDERGROUND	2	木	45×45×7.5	1979	福岡市美術館蔵 行動美術 Tokyo '79展
80	DISK	18	〃	55×55×7	〃	G-7展
81	DISK	19	〃	55×55×7	〃	〃
82	UNDERGROUND	3	〃	40×90×90	〃	福岡市美術館蔵 第34回行動美術展
83	DISK	20	アルミニウム	39×20×12.5	1980	行動美術TOKYO'80小品展
84	CLOUD	3	(小) ジュラルミン	11×50×12	〃	九人の作家〈現代の造形〉展
85	CLOUD	5	(大) 木	134×110×80	〃	和歌山県立近代美術館蔵 第35回行動美術展
86	CLOUD	4	(大) ジュラルミン	97×70×12	1981	和歌山県立近代美術館蔵 建島覚造個展
87	UNDERGROUND	4	(大) 木	40×190×30	〃	建島覚造個展
88	CLOUD	6	(大) 〃	91×80×26	〃	行動美術TOKYO'81展
89	CLOUD	7	ジュラルミン	27.5×58×12	〃	かねこ・あーとギャラリー蔵 建島覚造個展
90	CLOUD	8	(大) 木	70×70×31	〃	建島覚造個展
91	CLOUD	9	(大) 〃	90×87×31	〃	〃
92	CLOUD	10	〃	45×45×6.5	〃	〃
93	CLOUD	11	〃	45×45×6.5	〃	〃
94	CLOUD	12	〃	45×45×6.5	〃	〃
95	CLOUD	13	〃	45×45×6.5	〃	〃
96	CLOUD	14	〃	45×45×6	〃	平面を這う立体作品展
97	CLOUD	15	〃	45×45×6	〃	〃
98	CLOUD	17・量	(大) 〃	161×71×28	〃	第36回行動美術展
99	CLOUD	3	(大) 〃	37.5×182.2×44.3	〃	「現代日本の美術」展
100	MANJI	(マケット)	ステンレス	H 56.5	〃	〃
101	MANJI		〃	H 270	1982	ミキモトプラザ彫刻展
102	CLOUD	19	(小) 木	73×30×45	〃	〃
103						
142						
143						
145						

### 3. 共催展覧会

#### ○ 第19回和歌山県美術家協会展

和歌山県美術家協会々員による総合美術展で、日本画など7部門を二期に分けて開催した。

会期 第1期=7月16日～20日(日本画、書、工芸、生花) 第2期=7月23日～27日(洋画、彫塑、写真)

主催 和歌山県美術家協会、和歌山県立近代美術館 / 後援 朝日新聞和歌山支局、和歌山県立近代美術館友の会

#### ○ 第35回和歌山県美術展覧会「県展」

県民の美術に関する愛好心と鑑賞力を啓発し、創作意欲の昂揚をはかり、本県における美術文化の向上発展に資するために開催する恒例の公募展(第14回県民文化祭参加)

会期 第1期=11月12日～16日(生花、書、彫塑)

第2期=11月19日～23日(日本画、工芸、写真)

第3期=11月26日～30日(洋画)

新宮展=12月11日～13日(各部門選抜/生花を除く) 会場 新宮市民会館

主催 和歌山県教育委員会、和歌山県立近代美術館、毎日新聞和歌山支局、新宮市教育委員会(新宮展)

主管 和歌山県美術家協会 / 後援 和歌山県、新宮市(新宮展)

#### 応募点数・入選(入賞)点数・展示点数(本展)

区分	応募点数(人員)		入選点数(人員)		入賞点数				無鑑査以上の出品点数				総展示点数			
	34回展	35回展	34回展	35回展	特選賞	奨励賞	34回展	35回展	34回展	35回展	34回展	35回展	34回展	35回展		
生花	22 (22)	31 (31)	22 (22)	31 (31)	4	4	1	1	4	3	3	4	7	7	36	45
彫塑	25 (22)	17 (15)	25 (22)	17 (15)	4	4	1	1	6	6	3	3	5	6	39	32
書	171 (171)	170 (170)	148 (148)	149 (149)	4	4	10	10	28	30	22	21	16	14	214	214
日本画	55 (54)	64 (64)	54 (54)	52 (52)	4	4	3	4	12	8	9	10	10	9	85	79
工芸	105 (66)	62 (46)	48 (48)	42 (42)	4	4	4	3	6	8	8	9	7	6	69	65
写真	242 (116)	214 (108)	124 (78)	116 (72)	4	4	8	8	7	3	7	7	10	10	148	136
洋画	358 (210)	348 (209)	151 (151)	151 (151)	4	4	13	13	31	25	42	42	20	20	244	238
計	978 (661)	906 (643)	572 (523)	558 (512)	28	28	40	40	94	83	94	96	75	72	835	809

#### (新宮地方展)

区分	一 選		入 賞		無 鑑 査		招 待		審 査 員		合 計	
	34回展	35回展	34回展	35回展	24回展	25回展	34回展	35回展	34回展	35回展	34回展	35回展
日本画	0	0	5	5	0	1	0	0	9	8	14	14
洋画	42	30	6	5	4	3	5	7	18	19	75	64
彫塑	0	0	2	2	0	1	0	0	4	3	6	6
工芸	1	2	2	0	1	0	0	0	1	1	5	3
書	10	15	4	4	5	5	2	2	15	14	36	40
写真	2	2	12	10	2	1	1	1	10	10	27	24
計	55	49	31	26	12	11	8	10	57	55	163	151

#### ○ 第15回和歌山県立近代美術館友の会展

和歌山県立近代美術館友の会活動の一環として、各実技講座で制作した作品等によるアマチュアの総合美術展

会期 2月18日～22日(洋画、日本画、写真、陶芸)

主催 和歌山県立近代美術館友の会、和歌山県立近代美術館 / 後援 和歌山県美術家協会

## 4. 貸館 展 覧 会

会 期	名 称	概 要	展示室
4月2日～4月6日	第8回和歌山東風会展	書/天石東村主宰	一/二/四
9日～13日	集団「光」写真展	写真/集団「光」	第一展示室
〃	有人クラブ写真展	写真/同好グループ	第二展示室
〃	新構造社和歌山支部有志展	洋画/新構造社和歌山支部会員有志	第四展示室
16日～20日	秀蘭会展	水墨画/寺口関山主宰	第一展示室
〃	第24回オール関西フォトグループ展	写真/関西在住写真家グループ	第二展示室
〃	第4回彩展	洋画/新世紀美術和歌山グループ	第四展示室
23日～27日	第17回葵フォトグループ写真展	写真/亀忠男主宰	第一展示室
〃	勝和会水墨画展	水墨画/同好グループ	第二展示室
〃	火旺会展	洋画/同好グループ	第四展示室
30日～5月4日	黎明クラブ写真展	写真/明楽光三郎主宰	第一展示室
〃	第46回木国写友会展	写真/島村安彦主宰	第二展示室
〃	グループ「波」展	洋画/同好グループ	第四展示室
5月7日～11日	第15回三光会日本画展	日本画/山東光風主宰	全 館
14日～18日	和歌山大学絵画部2・3回生展	洋画/和歌山大学2・3回生	第一展示室
〃	和歌山独立クラブ展	洋画/和歌山独立クラブ	二展/四展
21日～25日	洋画12人展	洋画/同好グループ	第一展示室
〃	エトアール洋画会展	洋画/エトアール洋画会	二展/四展
28日～6月1日	土と炎の会展	陶芸/土と炎の会	第一展示室
〃	第7回和興会書展	書/山本興石主宰	第二展示室
〃	和歌山ステーション絵画教室展	洋画/和歌山ステーション絵画教室	第四展示室
6月4日～8日	第34回和歌山県書道協会展	書/和歌山県書道協会	一/二/四
11日～15日	第34回示現会和歌山巡回展	洋画/中央展選抜作品と一般公募作品	全 館
7月30日～8月3日	第35回青甲会展	洋画/青甲会	第一展示室
〃	花王石鱗絵画・写真合同展	洋画・写真/花王石鱗絵画・写真部	第二展示室
〃	律の会展	洋画/斎田武夫主宰	第四展示室
8月6日～10日	紀陽銀行美術クラブ展	洋画/紀陽銀行美術クラブ	第一展示室
〃	グループプリミティブ展	絵画・デザイン/県出身美大OBグループ	第二展示室
〃	星墨会展	書/県立星林高校書道部OB	第四展示室
13日～17日	示現会和歌山支部小品展	洋画/示現会和歌山支部	第一展示室
〃	第9回県高校美術工芸科教員展	絵画・彫塑/県下高校美術・工芸科教員	第二展示室
〃	ACT展	洋画/小中学校美術科教員グループ	第四展示室
20日～24日	グループ旺美展	洋画/グループ旺美	第一展示室
〃	県高校書道科教員展	書/県下高校書道科教員	第二展示室
〃	ネイティブ展	洋画・彫塑/同好グループ	第四展示室
27日～31日	和歌山書人会同人展	書/書人会同人	第一展示室
〃	日本画青樹会展	日本画/青樹会	第二展示室
〃	第5回グループ互展	洋画/グループ互	第四展示室
9月2日～9月7日	和歌山県いけばな協会展	いけばな/和歌山県いけばな協会	全 館

9月10日～9月14日	紀州美術会展	洋画/紀州美術会	第一展示室
10日～14日	県下高校総合芸術祭書道展	書/県高等学校書道教育研究会	二/三/四
17日～20日	美術サークル連合展	絵画/県内美術サークル連合	一/二/四
24日～27日	第14回和歌山県勤労者美術展	日本画等7部門/勤労者による公募展	全 館
10月30日～11月2日	紙人形展	紙人形/グループたちばな	第一展示室
12月3日～12月7日	県下高校総合芸術祭写真展	写真/県下高校写真連盟加盟校	第一展示室
〃	第6回ひまわり会展	洋画/県警察職員絵画グループ	第二展示室
〃	手あみ手芸作品展	手芸/綾部道代手あみ手芸教室	第四展示室
10日～14日	第23回花王展	絵画・写真・生花/花王石鱗和歌山工場	一/二/四
17日～21日	県下高校総合芸術祭美術展	絵画・彫塑/県高校教育研究会美術部会	一/二/四
24日～27日	読者の写真コンクール写真展	写真/全日本写真連盟和歌山県本部	第一展示室
〃	和歌山大学絵画部展	洋画・彫塑/和歌山大学絵画部	二/三/四
1月7日～1月11日	和歌山版画協会第10周年記念展	版画/和歌山版画協会	第一展示室
〃	和墨展	書/和歌山大学書道部	第二展示室
14日～18日	市和商商業デザイン科卒業制作展	商業デザイン/市立和歌山商業高校	第一展示室
〃	日曜画家展	洋画/和歌山日曜画家グループ	第二展示室
21日～25日	第4回水葉会水墨展	水墨画/水葉会	第一展示室
〃	和歌山大学絵画部4回生展	洋画/和歌山大学絵画部	第二展示室
28日～2月1日	第30回県下高校商業美術展	ポスター・デザイン/県商業教育研究会	第一展示室
〃	第10回オークレイ展	絵画/田中善弘主宰	第二展示室
2月4日～8日	洋画ルミエール展	洋画/佐原光主宰	第一展示室
〃	第25回オール関西フォトグループ展	写真/関西在住写真家グループ	第二展示室
11日～15日	日中きりがみ展	きりがみ/日中きり紙同好会	第一展示室
〃	東洋魚拓拓正会和歌山教室展	拓画/東洋魚拓拓正会和歌山教室	第二展示室
18日～22日	和歌山大学卒業制作展	洋画/和歌山大学	第一展示室
3月25日～3月29日	東雲会書作展	書/谷口東峰主宰	第一展示室
〃	第1回集団「無限」写真展	写真/集団「無限」	第二展示室
〃	毎日文化教室洋画部展	洋画/毎日文化教室洋画部	第四展示室

## 5. 普及活動

### ○「美術館だより」

「美術館だより」は、館の公報紙として、館主催及び共催展覧会の紹介と解説、美術に関する論文及び随筆、友の会行事案内、活動報告、和歌山の美術文化関係ニュース、各種美術展だより等を掲載し、毎月1日発行している。発行部数は2,000部。

号	発行月日	主要記事
184号	4月1日	企画展「洋画の世界—滞欧・滯米作品を中心として—」昭和56年度県立近代美術館主催・共催展覧会案内
185号	5月1日	館蔵作品展「版画・彫刻の世界—新収蔵作品を中心として—」
186号	6月1日	移動美術館'81御坊展開催 須田国太郎先生のこと(和高伸二) 県美術家協会の三役改選 第19回県美術家協会展日程表
187号	7月1日	昭和55年度新収蔵作品の紹介(1)
188号	8月1日	観山先生の遺作 川端龍子 館蔵作品展「洋画の世界—人物画を中心として—」 第35回県展開催要項きまる 審査員・運営委員名簿
189号	9月1日	観山のことども(仲田耕三) 昭和55年度新収蔵作品の紹介(2) 友の会洋画部写生旅行「奈良の

### ○「友の会活動」

県立近代美術館友の会は、アマチュア的美術愛好家で組織し、県民の美的素養の向上に寄与する活動を行っている。昭和40年10月発足。現会員数1,007人(普通会員951人・賛助会員56人)(行事毎に期日、テーマ、講師、参加人員の順に記載)

#### 〔美術鑑賞講座〕

4月12日	〈仏像の見方について〉 仲田耕三 23人
5月24日	〈「版画・彫刻の世界展」鑑賞〉 三木哲夫 8人

秋景を描く」 告知板 友の会美術鑑賞ツアー「山陽路の文化を訪ねてロマンの旅」

190号	10月1日	「下村観山展」開催にあたって
191号	11月1日	美術の秋をいろいろ第35回県展日程表 新宮地方展運営委員「下村観山—その人と芸術」展閉幕
192号	12月1日	第35回県展・栄光の記録 告知板 県文化賞、文化奨励賞及び海南市文化賞、橋本市文化賞受賞者紹介
193号	1月1日	年のはじめに(前田敏郎) 大衆の中に育つ文化(玉井一郎) 若々しい気魄で変化を求めよう(斎田武夫) 作家の記録「モニュメント」(建島覚造) 友の会新春交歓パーティ 友の会展日程 告知板
194号	2月1日	展覧に際して(建島覚造) 館蔵作品展—新収蔵作品を中心として— 友の会展 告知板
195号	3月1日	建島覚造の彫刻の世界(仲田耕三) 作者のことば
〔以上の主要記事のほかに、毎月「友の会行事案内」及び「美術展だより」を掲載〕		

7月4日	〈「アングル展」鑑賞〉 中田達郎 18人
8月9日	〈「洋画の世界—人物画を中心として」鑑賞〉 仲田耕三 9人
10月10日	〈「下村観山展」鑑賞〉 仲田耕三 32人
11月12日	〈「紀の川流域の仏像展」鑑賞〉 田村寛康 20人
1月10日	〈新収蔵作品の紹介〉 和高伸二 14人
2月14日	〈仏像の見方について〉 仲田耕三 18人

3月7日	〈「建島覚造展」鑑賞〉 三木哲夫 21人
〔洋画実技講座〕	
4月12日	〈桃畑風景を描く(貴志川)〉 小川英夫 52人
5月17日	〈春の写生大会(和歌山公園)〉 倉田純三 仙石光重 24人
6月14日	〈初夏の漁港風景を描く(雑賀崎)〉 八幡三郎 26人
7月12日	〈紀伊風土記の丘の夏景色を描く〉 前田博 39人
8月9日	〈夏の漁港風景を描く(雑賀崎)〉 山本龍昇 43人
9月19日	〈奈良の秋景を描く〉 ・20日 浜田邦男 30人
10月10日	〈風土記の丘の秋景を描く〉 中島久次 42人
11月15日	〈根来寺の秋景を描く〉 杉本寿光 49人
12月13日	〈静物画〉 松下英雄 33人
1月10日	〈静物画〉 鈴木善次郎 42人
2月14日	〈コスチュームの婦人像を描く〉 宮村泰彦 52人
3月14日	〈静物画〉 八幡三郎 40人
〔日本画実技講座〕	
4月26日	〈写生画の基本と制作〉 古村徹三 36人
5月24日	〈写生画の基本と制作〉 古村徹三 36人
6月14日	〈写生画の基本と制作〉 古村徹三 39人
7月26日	〈山水画の基本〉 寺口関山 44人
8月23日	〈山水画の基本〉 寺口関山 36人
9月27日	〈山水画の基本〉 寺口関山 48人
10月25日	〈和歌浦風景を描く〉 寺口関山 33人
11月29日	〈山水画の基本〉 寺口関山 47人
12月13日	〈山水画の基本〉 寺口関山 35人
1月10日	〈山水画の基本〉 寺口関山 39人
2月28日	〈山水画の基本〉 寺口関山 34人
3月28日	〈伊太祈曾風景を描く〉 寺口関山 23人
〔写真実技講座〕	
4月5日	〈春の撮影会(和歌山公園)〉 全写連県本部委員 18人

4月19日	〈月例コンテストと作品指導〉 東義行 17人
5月24日	〈月例コンテストと作品指導〉 東義行 25人
6月14日	〈月例コンテストと作品指導〉 木村太郎 17人
7月19日	〈月例コンテストと作品指導・磯の浦海水浴場風景を撮る〉 木村太郎 22人
8月16日	〈月例コンテストと作品指導・和歌浦の風景を撮る〉 島村安彦 19人
9月13日	〈月例コンテストと作品指導〉 島村安彦 17人
10月18日	〈月例コンテストと作品指導〉 五十嵐靖郎 15人
10月25日	〈秋のモデル撮影会(粉河寺)〉 全写連県本部委員 15人
11月15日	〈月例コンテストと作品指導〉 五十嵐靖郎 18人
12月13日	〈月例コンテストと作品指導〉 亀忠男 16人
1月10日	〈月例コンテストと作品指導〉 亀忠男 15人
2月13日	〈冬の高野山を撮る〉 ・14日 西川高三 13人
2月21日	〈月例コンテストと作品指導〉 西川高三 13人
3月21日	〈月例コンテストと作品指導〉 西川高三 13人
〔陶芸実技講座〕	
初級講座=手びねりによる陶芸作品制作 上級講座=電動ロクロによる陶芸作品制作	
4月5日	〈作品制作〉 柏井良夫・山本学 18人
4月25日	〈焼成〉 山本学 15人
5月10日	〈作品制作〉 柏井良夫・山本学 35人
5月30日	〈焼成〉 山本学 30人
6月14日	〈作品制作〉 柏井良夫・山本学 39人
6月27日	〈焼成〉 山本学 35人
7月5日	〈作品制作〉 柏井良夫・山本学 40人
7月25日	〈焼成〉 山本学 36人
8月9日	〈丹波古陶館と丹波焼窯元見学〉 柏井良夫・山本学 47人
9月6日	〈作品制作〉 山本学 27人
9月13日	〈作品制作〉 柏井良夫 8人
9月26日	〈焼成〉 山本学 30人
10月11日	〈作品制作〉 吉増達夫 20人

10月18日 〈作品制作〉 山本学 17人  
 10月31日 〈焼成〉 吉増達夫 33人  
 1月10日 〈作品制作〉 山本学・吉増達夫 32人  
 1月23日 〈焼成〉 吉増達夫 28人  
 2月7日 〈作品制作〉 山本学・吉増達夫 29人  
 2月20日 〈焼成〉 吉増達夫 25人  
 3月7日 〈作品制作〉 山本学・吉増達夫 21人  
 3月20日 〈焼成〉 吉増達夫 15人

〔チャリティー美術展〕

国際障害者年を契機に障害者福祉の発展の一助として「チャリティー美術展」を開催し、収益金を社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会へ寄附した。

会期 6月20日・21日／会場 紀の国会館

〔美術鑑賞ツアー〕

10月7日 〈山陽路の美術を訪ねる旅〉 24人  
 ～9日

## 6. 昭和56年度所蔵作品

○ 「購入作品」

〔洋画〕

No.	作者	作品名	材質・形状	寸法	制作年	出品展覧会
1	玉置 正敏	三角くじを喰べる男達	油彩・キャンバス	116.0×91.0	1953	第2回日本国際美術展
2	〃	赤い時計のある室内	〃	130.5×161.5	1954	第18回新制作協会展

〔日本画〕

3	稗田 一穂	夏去る	彩色・紙本	193.5×172.5	1980	第7回創画会展
---	-------	-----	-------	-------------	------	---------

〔彫刻〕

4	建島 寛造	CLOUD 5	木	134×110×80	1980	第31回行動美術展
5	〃	CLOUD 4	ジュラルミン	92×70×12	1981	個展 第12回中原二郎賞受賞

〔版画〕

6	浜口 陽三	ざくろとナイフ	メゾチント・紙	23.5×54.0	1959	
7	〃	びんとくるみ	〃	29.3×44.0	〃	
8	〃	ピーマンのある静物	カラーメゾチント・紙	44.0×29.5	1960	
9	〃	てんとう虫	〃	9.7×7.7	〃	
10	〃	貝	メゾチント・紙	29.5×44.0	〃	
11	〃	アマンド	〃	29.3×44.0	〃	
12	〃	アスパラガス	〃	41.0×29.5	1961	
13	〃	ポプラ	カラーメゾチント・紙	19.3×26.5	1962	
14	〃	1つのさくらんぼ	〃	34.3×29.4	〃	
15	〃	ぶどうとレモン	メゾチント・紙	6.2×8.5	〃	
16	〃	黒いさくらんぼ	カラーメゾチント・紙	34.3×29.4	1963	
17	〃	2つのさくらんぼ	〃	6.5×6.5	1964	
18	〃	毛糸	〃	7.5×7.5	〃	
19	〃	あじさい	〃	3.7×5.7	〃	
20	〃	突堤	〃	28.0×28.0	1965	
21	〃	14のさくらんぼ	〃	51.5×24.5	1967	
22	〃	17のさくらんぼ	〃	24.5×51.5	1968	
23	〃	ぶどうの房	〃	52.0×24.2	1969	
24	〃	赤い皿	〃	24.5×51.5	〃	
25	〃	樹	メゾチント・紙	3.7×3.6		
26	〃	木の葉	〃	3.6×3.5		
27	〃	てんとう虫	リトグラフ・紙	6.0×8.4		
28	〃	緑と紫のぶどう	カラーメゾチント・紙	10.5×10.5	1967	
29	〃	くるみ	メゾチント・紙	11.1×14.4	1969	
30	〃	ポプラ	〃	62.0×47.5	1980	
31	小野木 学	風景 H.A	シルクスクリーン・紙	70.5×57.5	1969	
32	黒崎 彰	時の軌跡	木版・紙	80.0×55.0	1981	
33	〃	黒の軌跡	〃	80.0×55.0	〃	第3回ソウル国際版画 ビエンナーレ展グラン プリ受賞



58	逸見 享	茅ヶ崎風景	木版・紙	31.8×40.7	1934	第12回春陽会展
59	〃	ねぎばたけ	〃	13.7×13.6	1935	第4回日本版画協会展
60	〃	農大実習場	〃	15.3×14.6	1935	〃
61	〃	農大実習場	〃	15.3×14.6	〃	上記の墨版
62	〃	茗 荷	〃	32.7×25.2	1935頃	
63	〃	薔	〃	24.1×30.3	1936	第5回日本版画協会展
64	〃	浜 波太風景	〃	35.9×46.7	1937	第6回日本版画協会展
65	〃	波太小景	〃	9.0×14.1	〃	〃
66	〃	新日本百景 犬吠崎晩夏	〃	22.8×30.3	1938	第7回日本版画協会展
67	〃	新日本百景 潮来晩秋	〃	22.8×30.3	1939	
68	〃	水郷風景	〃	22.6×28.8	1939頃	
69	〃	ベンチ	〃	15.0×15.8		
70	浜口 陽三 〔彫 刻〕	蝶と葉	カラーメゾチント・紙	8.5× 9.5	1972	
71	建畠 大夢	臼井雨山像	石 膏	H 68	1929	
72	〃	少女胸像	大理石	H 46.5	昭和前期	
73	建畠 覚造	作品A-8	ポリエステル	H 27	1950	第5回行動美術展
74	〃	作品A-23	〃	H 132	1951	第6回行動美術展

## 7. 所蔵品貸出状況

貸 出 先	展 覧 会 名 ・ 会 期	貸 出 作 品	種 別	点 数
朝日新聞社	第15回現代日本美術展 56・4・26～5・12（東京展） 56・6・3～6・14（京都展）	村井正誠作《黒い線》	洋 画	1点
神戸新聞社	近代日本の洋画による―“海”の名 作展 56・7・3～8・2	須田国太郎作《山陰風景》 原勝四郎作《小湾》	洋 画	2点
京都国立近代美術館	異色の水墨画家展 56・7・28～8・23	日高昌克作《秋山空明 図》 外4点	日 本 画	5点
町田市立博物館	日本創作版画のあけぼの展 56・10・20～11・29	石井柏亭作《墓地》《室内》 碓伊之助作《南仏の田舎娘》 《朝顔》 逸見享作《房州の女》 《上海風景》	版 画	6点
宮城県美術館	現代日本の美術展 56・11・2～12・6	建畠覚造作《CLOUD -5》	彫 刻	1点
富山県立近代美術館	「現代日本美術の展望―日本画」展 56・11・3～12・20	稗田一穂作《幻想那智》 《夏去る》	日 本 画	2点
福岡市美術館	藤森静雄版画展 57・1・5～2・3	藤森静雄作《群雀》《公 刊 月映II》	版 画 版 画 誌	1点 1点

## 8. 県立近代美術館協議会委員

氏 名	住 所	備 考
会 長	明楽光三郎	海南市日方582
副会長	室谷 文男	和歌山市園部152-8
委 員	梅田 善彦	和歌山市堀止西2丁目11-6
〃	榎本 長平	田辺市新庄町377
〃	大岡 皓崖	和歌山市黒田168-9
〃	楠見 勝寛	和歌山市新在家56
〃	斎田 武夫	和歌山市西浜1052-9
〃	島村 安彦	和歌山市磯山町4-2
〃	杉本 義夫	新宮市船町2-6-6
〃	高橋 正司	伊都郡かつらぎ町妙寺902
〃	玉井 一郎	和歌山市寺町13
〃	中村 瑛一	和歌山市中之島626
〃	尾藤 昌平	和歌山市堀止西1丁目3-22
〃	村田慶之輔	大阪府高槻市日吉台4-14-55
〃	脇村正太郎	田辺市栄町52

## 9. 県立近代美術館職員構成

館長	前田敏郎
次長	伊藤正也
調査員	野口照彦
(事業課)	
課長事務取扱	野口照彦
主査	松下勝行
学芸員	三木哲夫
〃	仲田耕三
非常勤嘱託	和高伸二
(庶務課)	
課長	吉田禎之
主事	三宅慎治
〃	羽賀明

## 〈資料紹介〉「日高昌克日記(II)」

1950年(昭25)

1月1日

午前二時頃ならんか 眠さめ 暫らくして眠りに  
つく 暁眠めたれど元旦起き出でんには早くまた  
覚むれば十時也 細雨しとしとと降り 十一時心  
ばかりの祝酒をのみ 風景画の骨かきに着手す  
午後近藤直人氏来る 九時就床

1月2日

午前二時頃また眠さむ 午前五時頃また覚む 起  
床また元旦に同じ 作画にかからんとせるに〔八  
瀬〕善郎夫婦来る 微雨温かし 夜九時就床 約  
二時間に及ぶ□ 熟睡す

1月3日

起床十時 快晴 昨夜の熟睡にて爽快 金剛山風  
景一点愉快地骨法をかく 午後池端〔俊輔〕君来訪  
大ひに歓談す 井内〔達人〕君垂いで来り共に五時  
去る 夜玉置君来賀

1月4日

九時半起床 曇寒し 和歌浦〔池田隆宅のこと 以  
下同じ〕に来る 賀状の返信 浜口勇一、奥源次、  
小野田凡二、和田伝太郎の四氏へ 風景二三ひき  
つづき制作 晴後又晴 入浴

1月5日

朝来曇がちなりしが午後快晴 まゆみ〔昌克曾孫〕  
戸外へ連れられ喜び限りなし 制作

1月6日

昨夜より寒さ強く今朝頃に寒冷ををぼゆ 西北風  
強くして破屋をたたき音凄し 九時就床 終日瀑  
金剛の風景をかく

1月7日

昨夜寒気強けれどコタツにいね暖かし 朝八時頃  
覚むれば風止み暁光偏ねく室内を照し暖かし 地上  
には山あり河あり気候には寒暖交互に去来す 人  
世また楽しみと憂とを織りなす 午後帰宅 九時  
就床 夜半眠覚め半時ばかり歓談

1月8日

十時起床 引続き制作 正午〔西林〕凡石君来り自  
作画三 書二をかす 午後九時就床

1月9日

十時半〔池田〕隆の家に来る 入浴

1月11日

寒気強し

1月12日

やや暖 午後ツタ子〔昌克夫人〕来る 入浴 マ  
ユミ夜

1月14日

夕方帰宅 制作の疲労か背より腹部にかけ索引痛  
あり 安眠を得ず  
理屈を以て処世の術と心得るな 愛を以て之に代  
へよ 芸道のこと又然り

1月15日

昼前まで就床 午後南氏来り雑談

1月16日

近来頗る暖かし 山田氏への返書腹案を書く

1月18日

画を描く若人へ 君は何とあって画をかいてゐま  
すか 大きい野心を持ってゐますか 途中でぐれ  
出してそれでおしまいになる不安を持ってゐませ  
んか そんな不安が一寸でも君の夢の中に頭を擡  
けるやうなら今の中に画をおやめなさい ぐれ出  
すことはいいことだと奨励する程のことも無いが  
その為に画までやめるやうな意志の弱さでは初め  
から画家となる希望をは捨てなさい 煩悶と焦燥  
は画家を立派にする試金石です 忘れてはいけま  
せん 君は日本一の画家と成ることを夢みて勉強  
しなさい 出来るなら世界一を心掛けるなら好ま  
しい それには現在の画人を問題にしてはいけま  
せん 古人の第一級の画人と競争することを忘れ  
てはいけません 悟入したやうな気持は東洋の画  
人を小さくします 死ぬまで迷って勉強すること  
です

1月19日

山田氏へ信仰問題に関する返書投函

1月22日

曇やや寒し 第一回芸術談会合す 来会者次の如  
し 華〔花〕岡堅吉 松島藤太郎 南條輝巳男 近



藤直人 南幸夫 井内達人 玉置栄二 西林凡石  
池端芋村 及主人  
夜十時就床 あられ降る

1月23日  
昨夜の疲労止まず休診 山田氏より礼状来る

1月24日  
和歌浦へ行く 入浴 ツタ子来る

1月25日  
近来頃に暖 午後細雨降る

1月27日  
快晴 入浴

1月29日  
終日条幅風景画をかく 暖し

1月30日  
和歌浦へ来る 室内乱雑 午後より天候悪くなり  
夕方より暴風雨襲来 ツタ子来るも風呂に入れ  
ず 夜に入り暴風いよいよ激しく遂に階下の診察  
室に一同屯し避難の準備態勢す 夜半風漸く止み  
就床□

1月31日  
夜来の天候俄かに極楽の世界と化す 暖かし ツ  
タ子帰る

2月4日  
帰宅 {後略}

2月5日  
寒気強し 終日作画 九時就床

2月8日9日  
二・三日前より暖気陽春の如かりしも朝来しとし  
とと降り出したる雨午後より激しくなり強風添ひ  
夕方より夜にかけて暴風雨となり破屋をうつ 音  
頻なり 終夜安眠を得ず 夜半一旦風止□るもまた  
一時間ばかりして強風雨となり 朝よりまた激  
しく 正午土砂降りとなり止むかと思ひし風もまた  
四時頃より激しくなり夜に入りまた風強く破屋  
をたたき不安かぎり無し 今日一日画をかかず  
「細雪」をよむ

2月10日  
暖きこと陽春の如し 風尚ほ止まず 夕方一旦な  
ぎたりしも夜半また南西の強風凄ましく破屋安眠  
を得ず 終夜眠起らず不安のまま時の移るをまつ  
漸く午前三時頃に至って風止み一同ほっとす 安

眠さむれず 朝嗽煌々たり

2月11日  
昼頃漸く<sup>(ツマ)</sup>降り風治まりのどかなる天候ありがたし  
米ソの雲行き平穏ならばと思はる世の中浅まし  
夕方砂山(自宅)へ帰る 夕食後条幅の渾染す

2月12日  
終日作画 寒気漸く加ふ 九時就床 熟眠す

2月13日  
寒さ強し 和歌浦へ来る 練兵場跡より南方権現  
山を眺むるに戦時中切り払はれたる桜木僅かに数  
本を残し山肌美しきがまだしも心を楽ましむ 午  
後ツタ子来り 孟また来る

2月15日  
寒し 隆診察場改築に着手す かなの音松風に  
和し風情あり

2月16日  
寒し かなの音よし ツタ子又来浦

2月17日  
やや暖 旧正月元日に当る 大工休む

2月18日  
暖 大工休む  
作画せざる日とてはなし

2月19日  
破家とりこぼす 暖くてよし 午後一時池端氏宅  
へ行かんとせるに川喜田半泥子私の画を望めると  
て高野住子氏を介して来信す 半泥子とは伊勢の  
陶工なりといふ 未知の人也 池端氏宅に会する  
もの南、松岡、凡石の三人のみなり 寂し 夕頃  
帰宅

2月20日  
午前二時頃眠さむ 久子朝和歌浦へ行く 同家へ  
泊る 十時就床 午前五時頃睡眠さむ

2月21日  
和歌浦へ来る 寒強し 普請はかどる

2月22日  
朝ツタ子来る 普請の騒音の中に制作 九時就床

2月23日  
曇後晴 午後四時頃半泥子、金沢、高野の両氏を  
伴ひ来浦 藤村へ招じ大に雅談 同夜藤村へ泊る

2月24日  
朝十時藤村より帰り二三患者を診る 暖かし 砂  
山へ帰る 少々疲労す

2月25日  
夕方帰宅 九時就床 深更夢さむ 拂曉また覚む

帰宅すれば机上に三浦氏よりの来信あり 蓋し画  
の捌を頼みたる返書なり 早速好<sup>(ツマ)</sup>の礼状をかく

2月26日  
仕事せんとするに紅葉谷(楠一)来り邪魔さる 午  
後作画 九時就床 楠本(峻士)君葬式にツタ子代  
参

2月28日  
暖 ツタ子来り手伝ふ 藤村へ行き風呂に流す

3月1日  
隆の家上棟 午後藤岡来る 華岡(華岳の誤りか)  
の観音を見る 真面目の作也 ツタ子帰る

3月4日  
帰宅に先だち楠本君の仏前に礼す 九時就床

3月5日  
光変らず快晴 暖かし 有本(廓)氏の書の件につ  
き斎藤氏室来る 三千円を渡す 午後玉置来る  
夕頃明楽君来り大雅の幅を見る 九時就床 m来  
入<sup>(ツマ)</sup>(自宅)

3月6日  
暖 関節いたし 来浦 鼓膜切開を行ふ 夕頃よ  
り南風吹き暖雨 横物二点精出す

3月7日  
午後より風雨強く南風は物凄ごくこの家に衝撃す  
夜に入りいよいよすさまじく一睡を得んとするも  
能はず 新築中の家屋もこの破屋も幸に事無きを  
得たり

3月8日  
今朝風雨止み快晴 ツタ子来る 患者二十名位  
われ一二名診察す 夜また安眠を得ず

3月9日  
然し快晴 十時起床 作画 白鷺蓮池を描く 大  
工休む

3月10日  
快晴 白鷺蓮池を描く 大工休む

3月11日  
帰宅 作画□

3月12日  
終日作画 長幅進行す 十時就床 熟睡す

3月13日  
今朝寒気強し 例により和歌浦へ帰る ツタ子已  
に来着す 夜帰る 喘息の気味あり

3月17日

けふ迄連日快晴ふしん好都合也 連日作画 夜三  
浦(直彦)氏へ送る作品準備す 七点を選ぶ

3月18日  
雨 寒し 東京三浦氏へ送る画の始末なる 八点  
あり内五点を送ることにする  
帰途雨中近藤氏を訪ふ 夕頃帰宅 九時就床 深  
更眠さむ  
芸術と浮気は其日の出来心にてどんなものに進展  
するや測りがたきもの也

3月19日  
昨日の雨止む 午後より晴る 隸人会来る者  
南 近藤氏等14名を数ふ 池端氏所用の為不参  
八時就床 夜中又眠さむ  
隸人参会者 西林 井内 近藤 明楽 花岡 幸  
塚 南 八瀬 三村 中村 善郎 玉置

3月20日  
朝木野氏来り金策を頼まる 鈴木康四郎氏に紹介  
す 伊勢川喜田氏より来書あり

3月22日  
三浦氏へ作品五点を送る

3月23日  
朝久子来浦 医師会へ届出ス 如佳代子病む

3月24日  
午後玉置来る 500をか寿

3月25日  
例により帰宅 明観察

3月26日  
十時起床 作画 風景画漸く行つまる 九時就床  
安眠

4月1日  
例により帰宅 八時就床 深更睡さむ 曉また醒  
む

4月2日  
夕頃入浴了り一服した時東京寛氏来訪 一時間位  
にて辞去 夕食後腹具合悪るし 夜中より下痢し  
始め数回下痢す 久しく入浴せざりしに今夕入浴  
のたたりか

4月3日  
発熱四十度 咳嗽及咯痰あり 隆午後來診 ペニ  
シリン注射 囚ブドー糖 コラミン等注射

4月4日  
熱下るも夜間又二回水様下痢あり 同日絶食す

4月5日

をも湯 果物少量  
4月6日  
をも湯 りんご汁  
4月7日  
をも湯 りんご汁  
4月8日  
ゆるき粥食一椀 一回下痢便  
4月9日  
故柳夫妻の法要を営む よし子・壽一夫妻の他皆  
集る 池端君も偶々参会す 賑やかなり 善郎の  
長女も来る 子、孫、曾孫一堂に会す わき寝な  
がらこの光景を目げきす 池端羨む  
4月10日  
まだ病氣就床 下痢全くやむ 食慾あるも制限す  
かゆ 餅 卵黄 りんご汁  
4月11日  
病氣就床 同上の養生 m来る由 午前硬便  
4月12日  
朝食を除く 就床 昼小鯛の煮つけ ホーレン艸  
玉子めし少量 かゆ一椀 梅干 朝下痢粘液便  
4月13日  
朝来少しく下痢便の気味あり 排便を試むも出で  
ず 午後硬便一つ  
食 朝昼煮魚少一ミソ汁 飯半椀 餅二切れ 夕  
さしみ 睡眠シ得ズ  
4月14日  
父祥月命日(52回忌)に当る ツタ子昌子をつ連墓  
参 半泥子より送附の「志のの免」茶わん到来 味  
極めてよし  
隆見舞に来る 明楽氏唐画購入の件にて来る 深  
更睡さむ  
4月15日  
朝早くツタ子和歌浦に行く まゆみ病状不安なり  
と聞く 心痛 昼常食かるく二椀 軟便あり  
三浦氏より来書 鞆彦、古径、梅原、蓬春の四氏  
評を聞く  
就床 岡本氏(孫)来る 深更睡さむ  
4月16日  
終日来客 午前中井内 松本朱像来ル 午後(河  
野)九民及岡本来る 孟義母来る  
九時入浴久しぶりにて心地よし 就床 熟睡す  
4月17日  
和歌浦へ来る 半泥子氏、三浦氏へ返書を読む  
腹具合十分ならず軟便

4月20日  
夕岡本氏の招宴により藤村へ行く 大谷房吉氏と  
初対面す 人物面白し 画もよし 会する人大  
谷、池端、岡本及余等夫妻也 雨中(山本)豊嗣さ  
んに送られ隆宅へ帰る  
4月23日  
終日作画  
4月26日  
強震あり 午後三時過  
4月29日  
高井氏夕刻来り晚餐を共にす 談面白し 酒予二  
合ばかり飲む  
この週間鮎の出品画をかく  
4月30日  
午前中井口君と談す 午後玉置を呼び交渉を絶つ  
入浴  
5月3日  
午後観風会30周年大会に素謡を聞く 鮎 道成寺  
よし 片山氏の仕舞品と貫禄を具備す 頗るよし  
今日より文化展の催あり  
5月4日  
ひる頃ツタ子来る 夜帰る 夜雨強し 文化展へ  
出品「鮎」評判頗るよし  
5月5日  
雨 むし暑し 安眠を得ず 蚊軍に襲はる  
5月6日  
午後地震あり(三時)やや強し 帰宅 深更蚊軍  
ノ為眠さむ 軽し  
断崖及藤村への小品  
5月7日  
天気晴る 午後隸人会を開く 会するもの池端  
南 南條 井内 橘 花岡 松島 西林の八氏也  
今日より Summer Time 他 蚊軍の為又三時過  
睡さむ数分  
5月8日  
朝丸正にて楠本(俊士)氏遺作展を見る 画業半ば  
にて逝く 惜し 和歌浦に帰る 好天  
午後外山(卯三郎)氏来る 夕頃帰る 和歌山にて  
泰西美術展開催の為也 腸カタル未治  
5月9日  
軟便次いで下痢

5月10日  
不消化便 服薬  
5月13日  
下痢漸く止む 九時就床 歓談半時ばかり  
雨後横物 断崖  
5月14日  
朝井内君来る 午後まゆみ来る 可愛らし 夜  
□歓談半時ばかり 明熟睡  
5月20日  
昨夜半より雨頻りに降る 七月頃のむし暖さなり  
しが朝十時頃より南の突風強く襲来 風速20米以  
上に達し二階の生活不安なり 幸ひに半出来の階  
下四畳半に避難す 夕頃風止む  
伊勢へ送る断崖半ばなる  
5月21日  
隆に代り午前中診察 午後一時前帰宅 浜口氏待  
たる 帰途寿仙堂にて裏打五点を渡 皆凡作也  
5月22日  
終日在宅 けふ客なく静なり 九時就床 こたつ  
入れて蚊帳をつる  
5月26日  
夜来雨 午前しばし又東の突風吹く 近来天候ま  
でアプレゲールの気味あり 畜に青少年の群に止  
まらず 恐ろしからずや 生きることうるさし  
5月27日  
夕頃帰宅 雨後の新緑うつくし 十時就床 深更  
眠さむ  
断崖殆んど完成 他横物二三点  
5月28日  
終日作画 割合に進まず 九時就床 深更又眠さ  
む 歓談90  
三浦氏より送金一万円 但し作品2点の代金也  
5月31日  
夕頃外山氏突然来る 西洋美術史(展)開催の為也  
夜砂山に泊る  
6月1日  
関節炎悪るし 川喜田半泥子より来信あり 返書  
す  
6月2日  
天気ウットーし 午後血痰あり 拇指大の暗血3  
個 咯痰と分離す 数年前初発以来時々咯出す

(年一回の割) 自覚症殆んどなし  
6月3日  
血痰止む  
泉声出山 瀧の二点大昭和製紙浅井専ムに売る  
6月4日  
天気よし 午後隸人会にて池端氏方集る 宮下  
氏入会 大雅の書を持参す  
外山氏来会せり 芸術論を聞く 帰宅すれば岡本  
氏余の帰宅を待つ 外山氏泊る  
6月5日  
終日作画 外山氏も泊る 夜駿河屋(岡本氏)又来  
る  
6月6日  
余は午後西洋美術史展を見て外山氏講演会を聞か  
んと楽しみしに隆よりの請ひにより朝来浦す 残  
念也  
川喜田氏より来信 愉快な人也  
6月7日  
夕頃外山君余の鉄斎の半がきを見る 樸仙に贈り  
し南極寿星也 梅仙墨を貰う 外山氏より梅仙墨  
を送らる  
6月8日  
川喜田氏へ半切を送る 傑作也  
半切春溪を川喜田氏へ送る  
6月11日  
正午修徳校にて観能す 杉浦師の熊野スバラシキ  
出来なり 完璧 六時閉会帰宅ス  
6月12日  
終日在宿 朝井内君鉄斎横物持参 是れ又スバラ  
シキ出来なり 昨日至芸を見今日この名画を見る  
われ幸福なり 天気よし 熟睡 梅雨入りの由  
6月13日  
朝来浦 新荘へ移る 心地よし 夜坂上氏来訪  
6月15日  
川喜田氏より作品安着の便あり(孫)ごしく喜び来る  
6月18日  
午後坂上方にて岡本氏と飲む 談笑限り無し 幸  
に天候晴る 夕奥源次氏来訪一宿する 懐旧談す  
6月20日  
梅雨空鬱陶し ひる頃より風極めて強く雨を添ふ

6月21日  
梅雨 終日物うく作画進まず  
.....  
6月24日  
夕方帰宅 入浴 九時就床 暴風強きも雨降らず  
砂塵に悩まざる 夜に入り夕立して風止む  
6月25日  
終日作画断崖半切 晴天にして涼し  
6月26日  
和歌浦へツタ子と共に来る 善郎より近代感覚論  
の手紙着 面白し  
6月27日  
□ 終日作画 □□  
.....  
6月29日  
夏晴れ 梅雨の心地されず 然るに朝鮮問題鬱陶  
しき限り  
.....  
7月1日  
帰宅 入浴 深更眠さむ ツタ子喘息更らに快な  
らず  
二度目に見てもよく 三度見ても幾度見ても味の  
ある深い画でなければ本ものでは無い 大抵の画  
は一度見ただけですぐ倦(ママ)きが来る 人間も同じ  
7月2日  
隸人会集まる者 池端 花岡 井口 坂上 明楽  
若林 西林  
不眠 深更漸く眠に就く  
.....  
7月8日  
帰宅 井内君小児診察ニ来ル  
自分が楽しんで描いた画は拙くともどこかに捨て  
難いところがある 自分が楽まないのに他人が楽  
しむ道理がない  
7月9日  
終日作画 夜柳田君来る 十一時就床 久しぶり  
にて歓談す 熟睡  
近来頻りにアスピリンを飲む 病勢悪化の為か  
.....  
7月12日  
身体だるし 画をかく気持起らず 川喜田 浜口  
両氏へ出状  
7月13日  
川喜田 浜口両氏へ作品を送る  
.....

7月15日  
帰宅 マユミを連れる  
人の己れを知らざるを患へず 人を知らざるを患  
ふといふ 人の己を知らざるを患へず 画の出来  
ざるを患ふ  
7月16日  
熱あるやうにて物うし 関節炎の為か 90安眠  
.....  
7月21日  
〔全文略〕  
7月22日  
帰宅 作品風景着手  
優れた個性はいつ如何なる時にも人を感動さす力  
をもつ 絶へず苦しみつつ磨きつつその末に発見  
されるものこそ永遠性の美をもつ  
.....  
7月26日  
近来関節炎悪化の為体だるし  
.....  
7月29日  
帰宅 矢橋〔六郎〕氏より3000送金  
7月30日  
終日尺五風景 しゅう雨頻り土砂ぶり也 夕方止  
む されどむし暑し 夜に入りやや涼し うれし  
き限り 関節炎よろしからず  
7月31日  
三浦氏へ3000送金  
.....  
8月3日  
作画少しく打開の兆あり  
.....  
8月5日  
〔前略〕  
墨画は真剣勝負の芸術だ 最後の一筆で生きるか  
死ぬかの運命を決する  
8月6日  
三浦氏より礼状来る  
.....  
8月8日  
孟国家試験通過祝為祝盃を隆宅にて挙ぐ 会者隆  
一族及良雄、昌子、三郎、善郎、久子及孟夫婦也  
8月9日  
井内3500持参 (生駒氏の分)  
8月10日  
〔全文略〕

8月11日  
井内君3500持参 中尾氏の分  
8月12日  
帰宅0.90  
8月13日  
終日小品作画  
8月14日  
m又来る  
.....  
8月16日  
近来主として小品をかく  
.....  
8月18日  
m漸く□□したる由  
8月19日  
帰宅 ツタ子又夜中喘息発作を起し安眠せず  
8月20日  
昼すぎ池端君来る 十時就床 ツタ子喘息発作の  
気味アリたるも懐旧談をなす中愉快となり約一時  
間ばかり忘我の境に入る むし暑くて眠りがたし  
起□□人生は楽し 〔後略〕  
.....  
8月22日  
隆病気 耳科の診療をなす  
8月23日  
夕頃三浦氏来訪 大ひに楽し 十時辞去 雅談懐  
旧談を為す  
同上  
8月24日  
同上  
8月25日  
同上  
8月26日  
帰宅 那智瀑□染 九時就床 ツタ子喘息の為終  
夜眠らずといふ  
8月27日  
午後明楽氏来り梨恵まる ツタ子終夜の喘息にて  
安眠を得ず アドレナリン注射す  
.....  
9月1日  
隆胸部疾患の為今後の方針打合わせ 為ツタ子昌  
子参集 雨激しくツタ子泊る  
9月2日  
今朝よりの雨に風を加へ正午には風速25mとなり  
強雨高潮見る中に増水 午後一時過辻屋主人に負

れ辛ふじて避難 隆病中ををし家族と共に又難を  
免がる 午後五時頃帰り来れば家財夜具悉くぬれ  
鼠の如し  
.....  
9月17日  
午後一時より文化協会主催の講演会に望み「すみ  
絵の話」を弁す  
.....  
9月21日  
夜昌子来る 吉村氏よりの朗報あり 作品4点と  
る  
9月22日  
川喜田氏より朗報あり  
.....  
9月24日  
池端氏宅ニテ隸人会アリ 先ツ隆ヲ病院ニ見舞ウ  
9月25日  
孟来り隆病状の奮ならぬを語る ツタ子連日不眠  
と喘息に悩む  
9月26日  
川喜田氏へ出信 咳嗽と共に□す 数回に亘る  
9月27日  
今日より随筆一日二枚<sup>(ママ)</sup> ツツ浄書スルコトヲ決心  
ス 川喜田氏より来信 一万田総裁及石渡理事よ  
り画の依頼アリ 良雄よりも来信あり  
9月28日  
隆病状ややよろしき由  
.....  
10月1日  
原稿「線」をかく 三十日夕方ツタ子和田方へ行  
き泊る 制作大ニ進む  
10月2日  
九時入浴終レバツタ子飄然帰る 原稿休  
10月3日  
ツタ子夕方又和田方へ行ク 原稿休  
10月4日  
制作進む 良雄及中尾氏へ発信 但し隆病状を聞  
くの件  
10月5日  
原稿2枚かく「線」終る 巨椋池を書き出す 連  
日制作進む  
.....  
10月7日  
晩ツタ子帰る  
先月末よりの制作 巖壁の谷(2)断崖(半切)奥入

瀬 2尺幅 小品横物 葡萄リス

10月8日  
〔全文略〕

10月9日  
作品大に進む 〔後略〕

10月14日  
〔全文略〕

10月15日  
岩崎君よりぶどう恵まる 林良材君の「父に捧ぐる書」の貸与をうく  
川喜田氏より作品三点依頼される

10月16日  
〔全文略〕

10月17日  
俗事にかかわらず作品大に進む 午後五時ツタ子興奮す われゼンソク悪化を恐れ牽制す

10月18日  
隆次第に快方の由 ツタ子不眠とゼンソクに悩む 川喜田氏へ発信

10月20日  
久子休む ツタ子病気の為

10月21日  
終日作画 久子休学 川喜田氏24日来訪の電報あり

10月22日  
終日作画 九時就床 岩崎画をとりに来る

10月23日  
九時就床 午前二時頃エフエドリン注射 隆を病院に見舞ふ

10月24日  
午前川喜田氏来訪 立派な茶盃恵まる 謝礼他に5を又恵まる 山峽孤松 小品瀧を贈る

10月25日  
夕方W又来る

10月28日  
玉葱かかとせるに西林及若林君来る 墨画は真剣勝負也

10月29日  
W去る

10月30日  
終日作画

10月31日

午後池端氏来る

11月1日  
午後南氏来る 三時丸正に書画花道展を見る 帰途日赤に隆を見舞ふ

誠は天の道也 人に誠なければ物生きず 芸道にたずさわる者誠の上に奥床しさを大切とす

11月5日  
雨 関節痛む

11月6日  
終日作画せず 関節イタム 午前一時半頃強き地震あり 田辺湾が震源地也といふ

11月7日  
金沢直路氏より来書

11月8日  
午前二時眠さむ

11月9日  
県展審査に立あう 私の出品作は「山輝水媚」放送局所蔵のもの也

11月10日  
今日より一週間県展

11月12日  
午前十一時頃 金沢山内両氏来る 金沢氏より鶏卵を恵まる  
朝鮮金剛山風景「山輝水媚」及細瀧を金沢氏へ

11月16日  
金沢氏より5000送金あり マユミ来り泊る 隆まだハッキリせず ツタ子喘息の上に気管支炎に罹る

11月17日  
井内君より3000持参 島村氏の分なり 夕方昌子来りマユミを連れて帰る

11月18日  
午後一時より和夫にて英語弁論大会真雄(昌克孫)出席す 我れ行けず残念

11月24日  
夕方哲郎来り一泊 親子の不和面白からず 入浴

11月25日  
哲郎来り 夕方竹田氏藤村母と共に来る 隆病状面白からずといふ 夜ツタ子病況を見舞ふ 熱九度近いと聞く

11月29日  
隆明楽外科へ転ず 日赤入院以来二ヶ月半 此日肋骨切除術をうく  
明楽氏(祇園)南海墨梅持参 風格極めて高し

12月1日  
隆再度肋骨切除をうく 鬨多量なりし由

12月3日  
ひる前金沢、佐藤両氏来訪 ツタ子夜隆を見舞ふ 経過頗るよき由

12月6日  
夕方甲崎(鈴木善次郎宅)に行く 外気心地よし 途中隆を明楽氏方に見舞ふ

12月7日  
甲崎にて作画 心境極めて明朗 翠巒及朝ざり及山輝水媚の優作三点揮毫

12月8日  
甲崎滞在 同前

12月9日  
同前  
画家に大別して三段階あり よい画を作る者は芸術家也 巧みなる画をかく者は画工也 下手な画をかく者を職人といふ 職人画家の如何に多きや上手な画をかく者また多く よい画をかく者極めて稀也

12月10日  
同前 午後川口軌外・和田両氏と会す T夫婦にも会す 楽し 朝ざり完成せるを見る 優作也

12月11日  
夕方帰宅に先だち隆を見舞ふ 順調 明楽及南条氏に会ふ 隸人会の印を南条氏より受く 帰ればツタ子病床にあり 三浦氏令息より宗達扇面とどく

12月12日  
制作前の通り進行

12月13日  
同上 依頼揮毫の額二面返却さる あきめくら度し難し

12月14日  
久しぶりで入浴

12月15日  
近来不眠来る

12月19日  
京都竹栄堂主人川喜田氏への五点持参 箱書をなす 山峽孤松<sup>(ママ)</sup>図主もよし

12月25日  
川喜田氏の紹介を持ち九州の田中密雄 京都木田師来訪 半泥子より手焙り恵与さる

12月26日  
石渡忠四郎氏より金一万円及バター ウィスキー 恵まる

1951年(昭和26)

1月1日  
ささやかなる新年祝雑煮を食ふ 午後藤村母、まゆみを連れて訪はる 隆昨年来の病況漸くよろし喜ぶべし  
作画平日と異ならず

1月2日  
午後善郎夫婦まゆみを連れて来る  
作画平日と異ならず

1月3日  
作画平日と異ならず 今日迄賀状の到着約30枚也 池端君方にて「介石をかたるの会」を催す  
出席

1月4日  
作画

1月5日  
作画

1月9日  
三浦氏梅原2点持参

1月10日  
夜再来

1月11日  
川喜田半泥子恩人よりまた3万円贈らる 助かる知己の恩大なるを覚ゆ

1月15日  
午後池端 近藤老夫人来訪さる 老夫人よりかすてら恵まる

1月16日  
木田寛暁 小西平内両氏来訪 大閤窯の作茶盃二  
個贈らる うれし

1月18日  
連日の作画 奥入瀬 白鷺に梅 瀧二題など十数  
日続く 今後約半ヶ月にて完成せん  
作画熱心

1月20日  
午前三時眠醒む

1月23日  
同上 (作画熱心) 金沢氏へ作品を送り、青木へ  
送金

1月25日  
同上

1月27日  
同上 入湯

2月1日  
作画

2月2日  
同上

2月3日  
同上

2月5日  
芋村(池端俊輔)診察室にて卒倒 脳溢血の為也  
句之都(貞木英一)去り我独残

2月6日  
午後4時半芋村死す 隆来たる (明楽氏退院)

2月7日  
午後納棺に礼拝

2月8日  
芋村の葬式に列す 6日夜芋村の死顔を見るに生  
けるが如し  
御坊にて野田氏個展 私の作品4点出品す

2月9日  
佳代子南氏方へ行カシム 途中川喜田氏へ二点  
(梅雨季の山 白鷺)を送る

2月10日  
〔全文略〕

2月14日  
〔全文略〕

2月15日  
川喜田氏より作品着到

2月16日  
昼前前川氏来る 初めて素描を見る よし

2月18日  
金沢氏等差支の為来訪なき旨竹栄堂より通知あり

2月21日  
隆帰浦 夜より暴風雨あり 朝止む

2月21日  
中村善種君近藤氏に見せたる叭々鳥他数点を持参  
す

2月23日  
近藤氏より拙作の批評を寄越す 叭々鳥の気品高  
きを讃ふ

2月24日  
ツタ子喘息発作甚だし

2月25日  
同上 夜間発作甚だし 睡眠を得ず 胸に5箇注  
射

同日三浦氏令息来訪 善郎も来る

2月26日  
野田氏画四点を返却

3月4日  
数日来自我の為不和 又漸く解く 竹栄堂差支の  
為来らず

3月11日  
金沢、佐藤、山内の三氏来り粗飯を呈す 前夕満  
竹堂来る

3月12日  
〔前略〕川喜田氏より東京展のことにて端信あり

3月13日  
かほる子供二人をつれて来る 川喜田氏へ速達を  
出す

3月14日  
田中氏へ「松ニ叭々鳥」を送る

3月25日

〔全文略〕

3月26日  
甲崎着

3月27日  
朝川喜田 金沢両氏来り 砂山へ前夜帰る 両氏  
と共に個展の打合せを為す 同夜又甲崎へ来る

3月28日  
雨中竹栄堂来る 作品雲山無窮よし 表具もよし

4月2日  
雨中を犯して帰宅 金沢氏へ書面送る

4月8日  
午前二時眠さむ 又10分ばかりにて眠りに陥るを  
知る

4月9日  
竹栄堂へ「瀧」一点送る 蓋し五月展に出品の為  
也

4月10日  
連日作画九時就床 短時間ニテ眠る

4月11日  
八年前松枝(昌克前夫人)夜十二時前永眠 ツタ子  
喘息ニテ悩ム 罪恐ろし

4月17日  
夜清水氏来り「成長の家」の話をする ツタ子熱  
心に聞きイクラか反省す 其為か夜安眠 喘息起  
らず 不思議といふべし

4月18日  
昼前奥源次先生突然来訪す 出来君の選挙の応援  
に来れるといふ 〔後略〕

4月21日  
病氣投票 市長高垣 議員長田

4月22日  
日暖か

4月23日  
市長及議員投票日也

5月3日  
金沢 竹栄の両氏来り個展の打合はせをなす 竹  
栄堂表具の「春溪」「梅花小禽」及晴れゆく朝霧の  
三作箱書きす  
1日に久しぶりで和歌浦に出かけたも2日に帰  
宅し又3日夕和歌に行く

5月7日  
帰宅 個展出品作に没頭

5月8日  
同上

5月9日  
同上

5月10日  
晩4点出来

5月11日  
朝飛脚便ニテ竹栄堂さんに托す 井内君を介す

5月14日  
前川氏来訪 夕食後和歌浦へ

5月15日  
竹栄堂の箱書を持ちてツタ子来る 横物瀧出品画  
を竹栄へ渡す

5月17日  
青木君母来りツタ子と共に和歌浦に来る  
画業ゆきつまれり  
和歌祭あり

5月18日  
川喜田氏へ出信 展覧会の期日を知

5月20日  
元和中校長野村氏歓迎会へ望む

5月23日  
m来る

5月26日  
文人会□を語るの会へ出席後和歌浦に来る もっ  
ぱら色紙をかく

6月2日  
和歌浦から帰宅 清水氏来合はせ生長の家の講義  
を聞く 夜十二時就床 腸をやむ

6月3日  
腸を病む 一時間 作品4点

6月4日  
身体だるし40分

6月5日  
飛脚に托し個展の作品4点を山中へ届ける

6月6日

各所へ案内状を送る 金沢氏より手紙来る 案内状同封

6月9日 今日より半泥子・昌克連合個展を阪急山中陳列所にて開催 田辺氏に助けられ出版 17日迄開催 頗る好評 長谷川義郎氏の知己を得たり

7月17日 山中商会田中氏昼前訪 会食

7月18日 外山氏来る

7月20日 思ひもよらぬ盲腸炎を病み明楽氏の診を乞ふ 已に化膿せりといふ

9月10日 病癒へたと思ひ和歌浦へ行く

9月29日 一兩日前より疲労感アリたるが前日よりの盲腸部□異状感増し夕刻右盲腸部の激痛あり 直ちに明楽氏を呼びたるに即刻手術せよと勧められ夜九時切開をうく

10月19日 夕退院

11月17日 又盲腸炎腔腸疼痛 氷口法を行ふ

12月15日 漸く皆□筆をとる 紀伊民報社依頼の龍をかく

12月17日 5ヶ月ぶりにて漸く愁眉を開く 作画たのし

12月20日 連日の龍画完成

1952年(昭和27)

1月1日 ささやかなる祝をす 作画如例年難有し 病癒えたるも自重し病床上にて執筆 昼前より挨拶客左の如し 善郎夫妻 隆とまゆみ 江見氏 鈴木 近藤直人氏等 年賀状数十通

1月2日 作画 午後木許氏来る 菓子を恵まる

1月4日 作画

1月13日 連日作画

1月17日 ウラ打10点出来

1月22日 連日作画

日付不明 23日以来盲腸部異常感の心地せるを以て自重 作画進展にぶし

1月27日 寺町窓普寺にて故(池端)芋村祭を催さる われ拙文を作りその霊前に捧ぐ 井内君代読

1月28日 夕頃突然金沢氏来訪 月夜横物 雨季の山及夕暮れの山(小品)を贈呈す 午後9時辞去 27日に半泥子先生より「千年の寿」恵まる

1月30日 長谷川氏より旧作2点箱書頼まる

2月5日 竹栄堂待てども来らず 空さ強し 連日一時間ばかり作画をつづく

2月9日 奥源治氏来訪 カステラを頂く

2月16日 よき作品出来 久しぶり

2月18日 盲腸部又異変 軽けれども四度目の発作也 就褥始マル

2月19日 氷口法

2月23日 下痢便 粘液

2月25日 今日迄氷口法 こん度ハ絶食もせず 流動食にもせず かゆ食 卵黄一日4ケにて 長谷川氏への花鳥表具出来よろし

2月29日 長谷川氏へ贈る二点荷出来 箱書きす 那瀑横物 及梅に頬白

3月1日 壽一より10,000送金す 川喜田氏へ冬江の図及薄暮の図を呈す

3月2日 長谷川氏へ出荷

3月4日 狗巻氏来り画を論ず

3月5日 両氏より大ひに喜び来る 1日以来作画大ひに楽し

3月7日 作画

3月11日 昭和19. 12. 11の夜半前松枝(昌克前夫人)永眠 黙□を捧ぐ

3月12日 和光明照大姉の命日 神想観を捧ぐ 作画徐々に進行

3月15日 久子遠足法隆寺 今日約二ヶ月ぶりで散髪 (後略)

3月17日 久しぶりにて入湯 蓋し昨年九月下旬以来にて約半年を荏<sup>(マ)</sup>過す 垢湯槽の中に浮べるさま小魚の群をなすが如し 心地爽快云ふべからず 長谷川氏より花鳥条幅依頼さる

3月18日 近来作画停顿 ツタ子喘息漸くよろし久しぶり也

3月23日 (全文略)

3月26日 和解 叭々鳥構想

3月27日 金沢氏より20,000病氣見舞として送らる 辞退 (後略)

3月28日 叭々鳥執筆

3月30日 川喜田氏より茶盃2ツ送り来る 一つは甚だよし

4月2日 入浴

4月3日 久子の雛祭をす

4月4日 金沢氏よりまた2万送金 この度は頂く 長谷川氏より1万及鉄斎画集を送らる

4月5日 連日作画 鉄斎壽一求む

4月7日 前川・狗巻の両君来る

4月9日 夜井内君来り神想観す □に楽し

4月11日 昭和19. 12. 11の夜 12日の0時前松枝死去 今夜其為お祈りを捧ぐ

入浴

4月12日 同上

4月13日 入浴〔後略〕  
長谷川氏の叭々鳥及観音像ほぼ完成

4月14日 5月16日  
亡父53回忌祥月命日の為ツタ子御坊へ代参 南紀商工祭和歌祭 初まる<sup>〔ママ〕</sup>

4月15日 5月17日  
入浴 久子 和歌浦へ泊る

4月16日 5月21日  
〔全文略〕 入浴心地よしや 時間

4月17日 5月23日  
夜長谷川氏への画うら打出来 中島君来る 短時間 甲崎に行く 青葉よし

4月18日 5月29日  
連日作画 午後帰宅

4月19日 6月1日  
久子等学校臨休 今日より3日間 □し西川事件也 午後藤村母来る 高田氏よりの画料持参 他にいろいろ恵まる ツタ子要用の為不在

4月23日 6月4日  
〔全文略〕 久子南紀へ旅行ス 中学卒業記念の前□也

4月25日 6月6日  
長谷川、金沢来信 早朝久子帰宅

4月26日 6月17日  
入浴 佳代子盲腸ニテ手術来宅

4月27日 6月18日  
仏教婦会 ツタ子出席 藤村母泊

5月1日 6月19日  
晴天 東京ニテメーデー暴動あり 入浴 心地よし 早朝の怒り大 入浴

5月2日 6月20日  
作画たのし 叭々鳥 連日作画

5月3日 6月26日  
休業 孟飄然来る 金沢氏午後来遊

5月4日 5月5日  
孟飄然来る 入浴 善郎来る 前日半泥子先生より快心の作「其[ママ]」恵まる

5月5日 5月6日  
入浴 善郎来る 孟 哲郎をつれ帰村 実によろし

5月9日 6月30日  
入浴 金沢氏より来書 松林氏画を希望すといふ

5月13日 日付不明  
連日作画に没頭 長谷川氏の蓬莱仙境図連日作画

廿三日出来 其後引続き五日間快筆を振ふ  
一日休廿九日又始ふ

7月30日  
長谷川氏より1万円着

8月1日  
久子和歌より帰宅

8月3日  
作画やや停頓

8月5日  
作画てい頓 エクチエマにかかる

8月6日  
同上

8月7日  
同上

8月8日  
同上

9月30日  
笠田(池田壽一宅)へ移転す どんな環境が生れ来るや

(10)月12日  
溪山遊鹿図完成 少しく通俗に傾く 恥かし 井内君来り他九点と共に裏打ニ托す

(10)月15日  
大島仙吉君より久闊の便あり 紀伊民報掲載の随筆「書」を見て刺戟せられたる由 友達方より来る心地してうれし 含蓄ある面白き人也

1955年(昭和30)  
1月2日  
半泥子箱造師服部武氏来訪 始め画家を志し家業をつぎ半泥子特別の箱造師となり世を送るといふ面白き雅人也

1月4日  
魯山人来訪 聞きしに違はず毒舌面白し この僻

地の乞食小屋にも等しき茅屋をしかもこの寒中来訪 恐縮也といへるにこの人曰く「あなたの画の力ですよ」とこの毒舌家にして奥床しくうれし

日付不明  
1月1日以来かきつづけたる蓬莱仙境小品3点まだ海のものとも山のものとも覚えざるに5日に画きかかれる水墨小半切の仙境は何等捉はるところなく愉快なる出来也 一ヶ月もたたば成功するらんか

1月15日  
寒気いよいよ強くりウマチ悪化 されど画は止められず 京都淡交社より同誌3月号に自分の画を素人名人芸として紹介すると申込み 筆者を保田龍門氏に囑し快諾を得(廿日に至急返答)

(1月)23日  
幸塚氏来訪

1月24日  
今年に入りて二度目の雪 降り積る雪はうつくしく前山の粧ひ得もいへず 朝戸を□すれば目忽ち醒む

1月25日  
佐藤春夫氏より其著「昌子(晶子の誤りか)曼荼羅」の恵贈をうく 同時に美果も恵まる

2月3日  
和歌山放送局より随筆を頼まる

2月7日  
昨夜までの暖気明くれば忽肌に寒く又寒き元に帰へる

2月9日  
寒雨屢々降る 京都淡交社白井氏来る 夕食を済まして帰る

2月10日  
東京竹田氏へ「深山の瀧」小品を贈呈す

2月11日  
寒さ強し 午後四時頃より細雪頻りに降り出し レールの下河岸より向う見えず

2月15日

B・K和歌山支局より依頼の一文を送る

3月18日

「長寿」B・K第一午後11：20—30間に放送さる  
右24日の夜に変更

### 後記

上記日記は、本館が1978年秋の特別展に於てその画業を紹介した日高昌克（本名池田昌克 1881～1961）のもので、原本は昌克の令嗣池田壽一氏が所蔵されている。

日記は全部で6冊の懐中手帳に記されていて、その内の3冊分、1940年と1948年・1949年のものについては、1978年度の本館年報で紹介したが、今回は残り3冊分、第4・5・6冊目の紹介である。

各冊の日記の書き始めと終りは、第4冊目が1950年1月1日から12月27日まで、第5冊目が1951年1月1日から1952年（10）月15日まで、第6冊目が1955年1月2日から3月18日までである。なお、第5冊目の手帳には、1953年1月20・29・30日、2月2・14日、8月6日、1954年4月11・12日、5月11日などの日付のある詩や散文などが記されており、1954年まで使用されていたことが判る。

各冊の日記の内容は、ほとんどが日常のメモであり、これらとは別の日記帳があったのかどうか現時点では不明である。

表記にあたっては、出来る限り原典に忠実であるよう努めたが、旧字体を新字体に改めた他、改行・句読点を少し整理し、判読不明の箇所は□に、誤字かと思われるものに〔ママ〕を附した。また、文中の編者による註は〔 〕で示した。

（三木哲夫）

### 和歌山県立近代美術館年報

昭和56年度

昭和58年3月31日 印刷

昭和58年4月1日 発行

編集・発行

和歌山市小松原通1丁目1番地

和歌山県立近代美術館

印刷

和歌山市北坂ノ上丁3

井手印刷株式会社